

昭和三年十二月十四日招集(才一号)
第四回市議会定例会々議錄

館山市議会第四回定例会会議録(第一号)

昭和三十九年十二月招集

二十二月十四日(月曜日)

一現在議員三十五名でその氏名次の通り

一番	吉田勇治郎	二番	鈴木正一郎
三番	小柴孝	四番	館石伝蔵
五番	田中祿郎	六番	秋山大三郎
七番	田村源治郎	八番	望月照正
九番	安西益男	一〇番	辻田実
一一番	石井正	一二番	黒川佐太郎
一三番	菊井敏博	一四番	志村信作
一五番	小沢恵太郎	一六番	関武夫
一七番	西村真次	一八番	藤田好治
二〇番	保科忠夫	二一番	江田徳太郎

二二番 君塚喜三

二三番

中村省吾

二四番 島野茂樹郎

二五番

萩生田七郎

二六番 鈴木

孝

二七番

鳴田繁

二八番 山田教子

二九番

鈴木市蔵

三〇番 安藤竜吉

三一番

安沢徳順

三二番 三沢

節

三三番

高橋文治

三四番 山本

昇

三五番

松本藤太郎

三六番 山口

康

一、議事日程(第一号)

第一、請願書

第二、報告質問

第三、館山市・富浦町・三芳村上水道組合議会議員の選挙について

第四、議案第九十一号 館山市特別会計条例の制定について

第五、議案第九十二号 非常勤の特別取組、取組に係る報酬及

に費用并償に關する条例の一部を改正する条例の制定について。

議案第九十六号

館山市取員給与条例の一部を改正する条例制定について。

第六 議案第九十三号

館山市特別職報酬等審議会条例の制定について。

第七 議案第九十四号

固定資産評価審査委員會の委員選任について。

第八 議案第九十五号

館山市青年館の設置及び管理に關する条例の制定について。

第九 議案第九十七号

昭和三十九年度館山市一般会計補正予算

議案第九十八号

昭和三十九年度館山市休養施設特別会計補正予算

認定第一号

昭和三十一年度館山市歳入歳出決算の認定について

認定第二号

昭和三十一年度館山市特別会計公益質屋歳入歳出決算の認定について

認定第三号

昭和三十一年度館山市特別会計国民健康保険歳入歳出決算の認定について

認定第四号

昭和三十一年度館山市特別会計と畜場歳入歳出決算の認定について

第五

認定第五号

昭和三十一年度館山市特別会計被左間及び加賀名地区簡易水増歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和三十一年度館山市特別会計休養施設歳入歳出決算の認定について

認定第七号

昭和三十一年度館山市特別会計ユースホステル歳入

歳出決算の認定について

認定第八号

昭和十八年度館山市特別会計純切簡易水道

歳入歳出決算の認定について

二法第百三十一条による出席説明員

市	長	本間	讓
助	役	小	武男
収入	役	完	戸貴
秘書	課長	小	倉澄男
企画	課長	谷	貝茂生
庶務	課長	山	口実
財政	課長	長	谷川広治
市民	課長	羽	山房雄
調査	課長	高	木哲三
消防	署長	若	田実

收納課長

多田俊一

商工觀光課長

小沢正治

農林水産課長

伊藤幸太郎

保健衛生課長

池田亮山

衛生施設課長

吉田耕一

福祉事務所長

鷺沢貫寛

土木課長

新井重助

建築課長

高野亮三

環境書記長

大嶋重義

診療所事務長

平柳徳蔵

教育課長

押本禧逸

教育委員会
庶務課長

千場伊右衛門

社会教育課長

利田正男

一本議会の事務局長事務局長補佐書記及び取員

事務局長 高梨清一

事務局長補佐 太田博雄

書記 兵藤恭一

取員 錦織睦子

出席議員 三十五名

欠席議員 なし

午前十時 開議

議長(黒川佐太郎君)今日の出席議員数三十四名

二日より第四回市議会定例会を開会いたします。

この際も報告申し上げます。

監査委員より送付のありました九月及び十月の例月検査

報告はお手元に配付し通りであります。

本定例会に本間市長、小出助役、完戸収入役、高野課長、新井課長、伊藤課長、羽山課長、高木課長、多田課長、鶴沢署長、小沢課長、谷貝課長、小倉課長、山口課長、長谷川課長、吉田課長、池田課長、大嶋書記長、岩田署長、平柳事務長、伊東主事、押本教育長、干場課長、利田課長、以上う出席を求めましたので、報告いたします。

会議録署名員の決定を行ないます。

本定例会、会議録署名員に一三番議員、菊井敏博君、二四番議員島野茂樹郎君、以上両君を指名いたします。これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって決定

いた—ました。会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき、議会議事運営協議会の意見は本日より十八日まで五日間ということであります。

おわかりいたします。

会期を五日間と定めますことに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって会期は本日より十八日まで五日間と決定いた—ました。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

まず本定例会について市長の説明を求めます。

(市長登壇)

(拍手)

市長(本間康君)本日、本年最後の定例議会を招集いたし—ました。

皆さま方には師走のあわただ—い中にも御参集をねが—う。

わし、まことに恐縮に存する次第でございます。

さて本日上程いたします付議事件は認定関係では、昭和三十八年度、館山市一般会計ほか特別会計、七つに及び歳入歳出決算の認定でございます。これは、地方自治法第二百三十三条二項の規定に基づきまして議会の認定に付するものであります。

一般歳入関係で上程いたしますのは条例関係の議案として特別会計条例、特別取報酬等審議会条例、青年館の設置及び管理に関する条例、非常勤特別取、取員にかかわる報酬及び費用弁償に関する条例、取員給与条例等があります。これは関係法令等に準拠して市条例を制定または一部改正しようとするものでございます。

その他固定資産評価審査委員会委員の選任にあ

たり、議会の同意をお願いする次第でございます。

予算關係につきましては、福祉生活保護費、千百七十三万二千円と、はじめ義務的経費として、四十八万五千円、農業構造改善事業費について補助額、及び関連事業で、国、県等補助の決定によって追加額千七百六十六万六千円、その他総額で四千十二万四千円でありまして、このおもな財源といたしましては、地方交付税、七百五十六万八千円、国庫支出金、千二百十六万、県支出金、七百二十八万六千円、競輪収入、八百二十万円をもつて充て、そして、その他休養施設特別会計で三十一万一千円を追加をお願いいたしますが、各議案につきましては、關係課長として詳細な説明をいたささせていただきます。よろしく慎重に審議の上、決定をお願いする次第でございます。（拍手）

議長(黒)り佐太郎君)日程第一請願書を上程いたします。

(書記朗読)

議長(黒)り佐太郎君)紹介議員の発言を求めます。

(二七番議員登壇)(拍手)

二七番(鳴田繁君)紹介議員の方、一同にかわりまして一言発言させていただきます。

概して海岸地区は水に恵まれておられないところが多いでございます。特に旧富崎村の地区では非常にひどい苦しいでござります。

ここにも書いてございます通り地区は今も人口は稠密である。日本全国でもこの稠密の度合はトップにいつておるのではないかと。千葉県から申しましても市川につぐ稠密度であるというふうに聞いております。そこで水のことにつきましては井戸をおろさう振っており

ますが、なかなか出ない。特に布良あたりは、灯台や折込は、井戸を掘っても出ない。従つてまず、半分の人たちは、ここに書いてございます通り、少りを利用いたしまして、洗濯とか、その他必要な水を使つてゐる。

相決におきまして、もうやく出る井戸をみつけ、そこにみな集まつて水をもらつて、ういでゐるというふうなわけでございます。こういうふうな衛生上から申しまして、非常に危険の念が起るわけでございます。

特にこの際、思ひ起りますことは、明治、晩年、大正、初頭にかけまして、相決と布良に大火があつた。相決におきましては、ほとんど三分の二が焼失し、布良におきましては、半数以上焼失してゐる。

これは、むろん風も強かつたんですが、水がせかつた。道、井戸を使えなかつた。これが原因でもつて、苦しいので、

あります。

こういうふうな防火的に申しましても非常に苦しい味わつてゐる。現在も焼いてゐる。

さらに考へて見ますと布良は純漁村であります。

従つて水の供給が多くなければならない。漁業面におきまして市場やような販売所を經營しております。こゝには、その船も入りますので、こゝに水を供給してゐるわけではなう。地元の船も出る時には、まず水をたくわえておだす。この水がない。

商人におきましても、この水を大事にしてゐる。このために鮮度を失う。そこには非常に損失をそこなう。

産業の方面から申しましても、深く苦んでゐるようなわけでございます。

それからさらに、観光の面におきましても、やはり布良

も順次漁も少なくなりまして。この点にも意見をいたしておるところでございます。

都人が別荘地その他いろいろのことからで、地所をおさつておりますが、まず水が松底であるということを聞きますといづれも「はいさようなら」これをよけて「まあ」といふような状況でございます。

特に如実に表われておりますのは、布良もつとも、景勝な地「あゆむ」ということがあります。こゝに景ユースホステルができてゐる。こゝも水がない。今申しました村はずいゝ小川の水を上げましてまかなつてゐる。このために客足の半分はこゝで失つてしまった。このように完全能力をホステルも發揮できないというような状態でございます。

かく申しましたならば、皆さんも、富崎地区がいかん水で

若しんであるか。ということがおわかりだろうと思います。

そこで水原の点でございますが、これは必ず当たり前でないこともない。地元におきましても熱心なことをあきら

てあります。カーカーかなむずかしいことでござい
すから、この点は特に市におきまして、全力をこめて
尽くしていただいて、そうして水原の開発に当たってい
ただきたい。そうして住民福祉の増進に処していただ
きたい。これを願ひ申し上げる次第でございます。

はなはだ簡潔でございますけれども、以上述べまして
この請願書の発言といたします。どうぞ市同僚くだ
さつてこの請願書を採択の上、ぜひぜひ適当な方
途を講じていただきたく切に願ひ申し上げる次第
でございます。

(拍手)

議長(黒川佐太郎君)本請願書に対する質疑を願います。

。三五番(松本藤太郎君)紹介議員さんにお尋ねいたしますが、
請願書の水道の施設というものは簡易水道のことであ
ろうと思いますが、その点をお伺いしたいと思います。

。二七番(嶋田繁君)お説のとおり簡易水道をきいてあります。
。三五番(松本藤太郎君)人が住む以上水というものは必須のも
うであつてこれは自治体が責任を持ってやらなければなら
ない。当然であります。

そういう点において一日も早くこの内容にあるような地域
であるならば、当然水道施設というものはやつてやらな
ければならぬと思つております。ただここでお伺いいた
したいのは館山市の今、申上げましたような水に対して
の自治体の責任上、館山が非常に水道行政について
何といたしますか、むしろいろいろなくさん
ある。今回富崎地区の簡易水道がでますと、富

崎、蛇切、波左間、こういう三つ、簡易水道ができる。これは地域住民の大きな犠牲によってできる。さらに市営の水道がある。また所くには、那古、船形地区における組合立による水道ができる。さらには民営の水道もある。

このように各種いろいろな内容の異なった水道があるわけなんです。このについて、この機会にも尋ねたいんですが、この簡易水道を我々議会として、私は認めてやりたいと思っております。

当局として、どういうふうにお考えになつてゐるか。或いは、さらに簡易水道でなく、近い将来、上水道をやるというふうな見通しをお持ちになつてゐるか。どうか。むろん、これは関係して組合立の水道、或いは民営の水道、そういったようなことも合わせて市長さんうち考えをお聞

かせ願いたいと思います。

市長(本間 謙君) 簡易水道につきまゝては、地域的、要望によりまゝてやつておるわけでございますが、これについては特別の補助金もあります。現段階におきましては簡易水道でやつた方がいいんではないかと思ひます。現在富浦三芳館山の一部組合がやつておる水道は相当大きな規模でございます。これが完成しますと相当の水があるわけでございます。これにつきまゝては一元化をはかることがいいとは考えておりますが、なかなかいろいろの関係上、館山市の現状では困難もあります。先般、館高の移管の問題で、知事、副知事と会いましたときに、知事は是非房州地区の水道を買いたい。

果敢でやりたいというお話がございましたが、果の力でやれ

ば、これを統合してみんな買収して大きな規模でやること
ができます。市の力ではなかなか現在では困難では
ないかと思いますが、今後は知事がそういう意向でござ
いますので、県にお願ひして一元化をはかつて参りたい
と考えておるわけでございます。

。三五番（故本藤太郎君）もちろん県営でやって下さいば一番
いいと思いますが、一か一県営でやるというのは今の
民営を持っていくという程度ではないかと思う。

ですから、館山市として実際に県営の水道をやらせ
ようとするならば、やはり今日、各種いろいろあるこの
水道を何か一つ、水源地というようなものを求めて、そ
ういう企画を立てていった方がいいではないか。県の水道
というものは、これはまだまだ市原が入るか入らないか、もた
つておる。とうてい館山の方まではないということ

を聞いております。

ですから、館山市自体でこの水道に対して今サ―はつきりとした抜本的な水道行政を考えてまともでない人という考えがあるが、全然無理でできないとおっしゃるのか、その点をもういっぺんお聞かせ願いたい。

市長(本間護君) おおせうように市で一元化してやることば望ま―いわけでございますが、現在う段階ではそれを将来の考え方でいきま―て今、すぐというわけには参らないと思います。

三〇番(安藤亀吉君) 今紹介議員の方から特に大災害防止と強調されたようでございますが、確かに明治の前にも富崎地区の大火、部落統制が三回あったということを知っております。

自分も経験からいたしますと、富崎地区の大火となる

と本當にひやりとするものがある。むしろ水道の設置は遅きに失するのではないか。もっと早くやるべきではなかつたかという考えます。

私の考え方を申しますと、先承知のように密集部落であるこの水道条例にこだわらないうで消化栓の設置を要所・要所に設置していただきたい。それにはやはり消防署あたりと相談をして設置場所を定めることが結構だと思ふ。

かつて川名見物あたりの消化栓もありましたが、せつかくお作りになつてもむだな場所があると思ふんです。かように私念願いたしましてこの請願書を採択したいと思ひます。

議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

本請願書を採択と決定するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)「中異議なし」と認めます。よって採択することと決まりました。

ただ今採択となりました本請願書を市長に送付いたし、たいと思います。こゝに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)「中異議なし」と認めます。よってさよう取りはからいたいと思います。

日程第二通告による一般質問を行ないます。

二三番議員 君塚喜三君、中登壇願います。

(二三番議員 登壇) (拍手)

二三番(君塚喜三君) 君塚でございます。

二つ、事項についてお尋ねしようとするものであります。まず第一点として市長は過ぎた三月市会で議

員から質問に答えて「小、中学校について長期計画のもとに順次全校舎を鉄筋化すること」を表明された。ところで、市承知のようにな小学校十三、中学校七、合わせて二十、これだけの市に義務教育に充て、二十校を保持してゐるうは他に少ないと聞いております。毎年一校ずつ鉄筋化しても二十年を要します。

神戸小學校のように二十年継続でゐるといふならば、実に四十年を要するものであります。

ところで教育の重要性が認識せられます。これを重視しつつあるうは、当市に限つたことではあるまいと思つてあります。今、Bクラス六市と呼んで、一つはブロックを作つて、連絡が取りつてゐるという、それらの市について、今年度、当初予算における構成比を

見ますると、当館山市が二六・二％に比べ、木更津が二六・二％、佐原市が一九・九％、茂原が二四・九％、たゞ野田市が大きな学校建設費を含んで二八・四％を当市を上回っておるであります。なお、柏市につきまゝては資料がなく、不明でございます。

その他、勝浦二・六％、習志野二・五％、佐倉一九・二％、こゝろが構成比からわかりますように、当市は教育費は他市に比較してかなり高い比率にあるのであります。

事実、私たちが、市の予算執行上から受ける印象は、教育費に振り回されていっているといった感じがするうであります。

当市において、前々田村市政においても、教育費について重視したことは三十七年度より当初予算で構成比二・

ハ%が示してあります。にもかかわらず、施設面等において、その割に実績が上っていないように思っております。校舎に至っては、危険校舎、不備格校舎のらく印を全面的に或いは一部の押さえておるものがほとんどであります。

一かもそれら二十校について、最初の一校にようやく手をつけたばかりであります。この大きな原因は、何といつても学校が多過ぎることに私はあると思っております。

教育の重要性から予算が現状では十分であるとは思いませんが、食料の増減の当市では、このために他が大きな制約を受けていることも、事実でありまして教育費といえども、むだは省かなければならぬ。

そこで私は、小、中学校の鉄筋化を機会に、要すれば、

これを条件として、学校の統合を、主として小学校の
統合を断行として遂行すべきであると思ふのである。
ます。

この機会をのがすならば、おそらくは近い将来に統合は
望めないでありましよう。ますます増大する教育費に
しかも実績の上がらない教育に振り回されて苦しい
財政をいつまでも続けなければならぬのではないうで
しょうか。ともあれ、多福ざるから減らしてということ
だけでは、大方の解決にはなりません。

そこで、どのようにして減らしたならば、その実現性があ
るのか、また、そのことに対して、市や財政の上下にプラス
になるのか。私はこの点について、次のことから、その実
現可能であると思ふものと信ずるものであります。

それは、交通の便がよくなったことであります。そうして

そのことが、距離と時間の短縮、合わせて低料金が
交通機関の大量化を来したことであります。

私は皆さんが承知するように国鉄バスのハンドルの毎
日握っております。この方面から振り下げてやり
解を得るうに都合がよいと思うのであります。

ただ、国鉄バス路線の右線に限ります。従って今から
の点は国鉄バス路線の右線に限ります。学校につい
ても限られた学校とあります。ご理解を容易に
するために、学校名を出しますが、これはあくまでも架
空の上になつてゐることをやり承いたいただきたいと
思うのであります。

ところで私は、千倉町がかつて合併した。全町一
の統合を勇敢にやつてくれたことに対してまことに
その方法を見なうべきだと思ひます。勇敢にやつて

のけたことに対して、またそう際々やり方が適切であった
ことをいふさうながら、賛辞を返さるべきこともいふ
方法を見なうべきだと思ひます。

統合の当初は騒がしかったが、今日ではそうだったことも
なく、学校面の充実は申すまでもなく、モデル校と
前進を継続しております。

千倉町は統合についてスクールバスを出すことで踏み
切ったのでありますが、国鉄バス路線関係としては、
浦中学の千倉中学への統合があつたのであります。
現在千倉中学校前まで、六キロ隔たつて白間津か
ら九十一名、七浦から百二十七名、平磯百二十七名
と浦中学学区内から三百八十八名が通学しております。
もともたスールバスといひましても、所定時間に中学生
通学専用として出すのであります。通賃は普通

補学定期賃貸であります。

国鉄に支払っている賃賃は年額二百八十三千四百十円であります。その半額を町が負担するといふ方法を現在取っております。

従つて七浦中学校分として町が負担分は年額百四十万五千五百二十円であるのであります。

それにもともと千倉中学校でありましたところのりにはから本千倉の百三十名が便乗した形であります。

そこで館山市内において国鉄バス路線の關係について見まするときに富崎小学校と神戸小学校、西小学校と東小学校、神余小中学校と豊房小中学校、こゝらが一定の町が想定する対象となるのであります。

今、仮りに富崎小学校を神戸小学校に合併した

とした場合、千倉町より一方、千倉方式としても申しますか、このようになりますと、どのような結果が出るかと申しますと、富崎と神戸小学校より大石より間は約一・六キロでバスで所要時間は三分であります。

最低、十円区間あります。ただし十円は大人運賃でありまして小学生以下は、そう半額であります。今年五月一日現在における富崎小学校児童総数は、三百七十七名であります。今もこの全員が通学定期で富崎、大石間をバス通学をいたしまして、その運賃は年額七十七万二千八百五十円でありまして従って千倉町より市が半額負担をすれば、三十八万六千四百二十五円で済むことに相なるのであります。しかも距離的に見ても神戸小学校学区内の谷藤原が三・五キロ、小原から大石、六・五キロもあるのに

對して富崎よりはずいから二キロであります。

合併児童数でみても七百五十八名、船形小ですら八百十二名であります。しかも今後は減少が考えられます。

次に西小と東小に合併したと仮定した場合に西小の児童数二百十、東小が二百六十二名であります。合併したとしても四百七十二名であります。

西小児童について部落別に彈賃を計算してみますと、年額六十二万九千七百六十五円でありまして、その負担分は三十一万四千八百八十二円五十銭で済むのであります。

なお現に西小につきまゝでは半分以上の百二十名が常時通学定期でバス通学しておるものであります。

伊戸と西小の間はわずか一區間ですのですら通学に

バスを利用してゐる状況であります。

東小についても二百六十二名の百五十名が通学にバスを利用いたしてゐる状況であります。従いましてそれらの児童が西小の児童について市が半額負担することによつてかえつてとくをする児童が出てくるのであります。次に神余小、中学校と豊房小、中学校についてであります。が、割愛いたしますが、干倉方式でやった場合に市も財政面に大きくプラスするのであります。

それに統合によつて建物敷地の処分によつて鉄筋化に大きく役立つのであります。

中学生は大きいからどこでもいい。小学校は無理だからといつても中学校はそのままです。所々畸分校が統合を見たのみであります。

小学生は無理だとする根拠は今日ではないのだと思う

のであります。

小学校へ行く前の子供が保育園や幼稚園へところによつては学区を越えて喜々としてバス通学をしてゐるからであります。

今日は歩いていくよりも乗つてゐる方が安全であります。従つて小学生以下は運賃が半額。今日は小学校の統合の方が中学校の統合よりむしろ容易であるように私は思うのであります。

次に学区の調整であります。が、学校の統合によつて新たに生ずる矛盾の解消はやはり、当然のことであります。けれども統合と切り離して考えて見ましても、現に大カ村合併したそのまゝの姿であつて、幾多の矛盾をいだいてゐるのであります。

その一つ例として神戸、西岬地区、小原部落であり

ます。

部落戸数は九戸で道をはさんで神戸側四戸、西岬側五戸。現に神戸側からは小学校二名に幼稚園一名が神戸の小学校に通学しております。

西岬側は小学校二名は西小に通学いたしております。ところが神戸側につきまゝでは布班の通学者が多いので朝晩について通学の便宜をはかつてバスが運行されておる。

西岬側にはそれがない。雨の日風の日には徒歩通学であります。同館山市に所在しておつてこれは一例であります。がこれに類する矛盾は他にもかなりあると聞いております。

鉄筋化を機会に学校を統合と合わせて学区の調整と是非とも遂行すべきであると私は思ひます。

が市当局のこのことに対する所見を聞きたいのであります。

次に第二点といたまいしてお尋ねすることは、観光行政についてであります。

第一点の質問の要旨が大へん長くかりましたので、簡略して説明をいたします。

人口十万人の産業と結びついた観光、文化都市の建設、これが本間市政、ビジョンと申しますか、見出しであります。これが実現のため三つの柱がたてられ、その一つが観光施設の整備充実という柱であります。

大黒柱であらねばならぬところで、市長さん福がた三月の予算市会の前頭に今年度の施政方針を明らかにいたしました。その中で観光施設、整備充実とそう対策の点について、基本的な

考えたい。まして本市の予算規模からして大型化して
観光施設に全面的に市費を投じていくことは極め
て至難であるので、民間資本の導入によらなければ
大いなる開発は望めないと思う。今年もさらに一段
と努力を傾注していきたい。とまことにたうも一決意
のほどを伺ったのであります。

今年度もあとわずか三ヶ月、きぞ努力がはらわれ、その
成果が上っていることは思いますが、表面には一向現わ
れてこない中で心配のあまりお尋ねする次第であり
ます。

市長からその成果と将来へ見通しをお聞きたい
のであります。以上大へん長い時間を恐れ縮に存
じます。(拍手)

(市長 登壇)

市長（本間 譲君）ただ今、君塚議員さんから質問がありまして、小中学校の校舎の鉄筋化を機会に学区の調整と学校統合をはかることとでございますが、現今のように生徒児童数が減少をしますときに、学校を統合することによりまして、予算の集中化がはかまいて、教育効果が上ることは当然でございます。私は、君塚議員さんの中趣旨に同感する次第でございます。

しかしながら、これを実施する上におきましては、いろいろ地理的、或いは歴史的、住民感情等、各地域の実態を十分調査検討し、また、地域の要望を聞き、その理解と納得の上に、或案を作りまして、実施して参りたい。こういうふうに考えておる次第でございます。

それから觀光行政につきまゝでは觀光の整備・充實をはかることにつきまゝでは、非常に大きな資本金を要するものでございまして、前にも申し上げまゝなように、市や一般財源では、どうしていきなないわけでございまして、どうしても民間の大資本を導入することが必要なわけでございまして、私も機会あることに資本金の誘致についていろいろ検討してゐるわけでございします。一か一かながら、今やところ、具体的に、当市にどういうものが進出するかというふうに決定したものはございせんが、たえずこの方向にむかつて努力をしてゐるわけでございします。

大資本が進出するにつきまゝでは、どうしても採算ということを考えるわけでございまして、これにつきまゝでは、いろいろ条件があるわけでございしますが、それには土地の利用価値とかいろいろなことがございしますが、現在は、大資本を誘致

二 岡山県議会
するためいゝゆる基本的のことを考へてゐるわけで
ございます。それにつきまゝでは、もつとも重要なことは、
交通問題であると考えざるわけでございますが、交通問
題につきまゝでは、国鉄の電化促進等につきまゝでも
関係市町村と一緒にかりまゝで、当局に對して猛進
動をしてゐるわけでございます。

また私も、念願をしておりまゝ、有料道路も開設す
ることになりまゝで、これに伴ひまゝで、これに連絡する各
道路の改善、舗装化を現在積極的に行つてゐるような
次方でございます。

また、これに伴ひまゝで、国民休暇村の施設の整備の推進
それから城山展望台の建設付近一帯の花園化の推
進、北条海岸の施設の整備等を、はかつて観光として
環境整備を促進することにより、観光地として、

将来性の期待を高める一面を現在持つておるような姿勢でございます。

そういう都市診断をこの前やりました。それを参考にしまして長期計画を検討してあるわけでございまして大資本進出の基礎固めをする。こういうふうな今段階であるわけでございます。

。三番（君塚喜三君）第一点の問題についての教育長さんや考えを承けたいと思います。

ただ今や市長さんの答弁の中で「住民感情」というようなことがあるわけでございまして、容易にはいかない。というところでございますが、現に私が先ほど要旨説明の中でおっしゃった学校などにつきましては、中學校については以前に統合されております。小學校だけが、そういう住民感情にはいるというふうには考えられないのであります。

要旨説明の中でも申しましたように、現在では幼稚園の子供ですら学区を越えまして喜々として通学しておるといふ状況である。

小学校の生徒につきましても先ほど説明しましたように、東小学校では二百六十二名のうち百五十名も現に通学定期でかよつておる。

また西小については半分以上二百十名のところ百二十名も通学定期でかよつてゐる。これは常時のことであつて、ただ距離がちつと延びる。

今伊戸から西小は一区間ですけれども、これを東小まで延ばして見るとして、それだけそこに時間の浪費と運賃の値上りがあるが、もし運賃において、そのためにガ―ヤを市において負担するという方法を取るならば、かゝつて現在より負担額より減る児童を

え出てくる。

要は熱意の問題であらう。説得できるようにすれば、
これは解決できる問題ではないか。しかも、この鉄筋化
を機会をうがすならば、近い将来にはとうていそのよう
な機会が出てこない。

また非常にむだをすることになってしまふ。鉄筋化を
してしまつてそれを飛び越えてしまつた。こちらの鉄筋の
建物がむだになる。そういうばかげたことはなさうない
と思ひますけれども、かような意味からいきましても、是
非ともこの機会に神戸はすでに鉄筋化に入つておる
ようでございますけれども、これは私が考え方からする
ならば、合致することは急がなくてもあとかうできる。増設
すればいい。そうしてその敷地、そういうものを観光開
発にかりにするならば、ある程度は収入がある。もう一年

置いて統合が困難であるとするならば、新入学生から
順次やめていけば、全部合致してしまふ。無理をなく
てもいい。是非推進していただきたい。この願うものであり
ます。

重ねてこの点につきましては、教育長さんや考えを承
わつてみたいと思つてあります。

なお、観光行政について質問——たが、ちつと市長さん
や市会と施政方針とは相違を来たてておるようにな
気がするので、三月の市会冒頭におきまして、施政
方針演説をなさいます。たが、それ以前や言葉やよ
うに受け取れない。ということとは、ここにも、施政方針
があるわけでもありませんが、それによりますと、「資本導
入素地ができたのではなかつたかと思つて、これまでも努
めなければ、今後はさらに一段と民間資本を導入に

努力を傾注していきたい」ということをおっしゃってゐる。ただ今
り市答弁では現に資本導入の素地も今までに作って
ゐる。そうために市努力がなされてゐるようにならうといひ
てありますが、さらに私といつては一段と市努力
が願いたい。

市長さん自体がかようなあつてございまするゝで表面に出
てこないのは当然でありまするがどうか一段の市努力をお
願ひいたしたいと思います。

。教育長（押本禧逸君）ただいま君塚議員さんから市費向
いただきまうたことにつきまして市長さんからお答えがござ
います。大方針はそゝ通り私も同トわけでございます
が、さらに二三具体的な問題でお答え申し上げるとする
ならば、学校運営をいへく中でもっとも教育の能率の
上という面から、或いは予算という面から、

適正規模学校というものがございます。

それはあまり生徒が少なくて、或いは多過ぎても一学校として運営はいろいろの不便があるわけでござります。そこで文部省では大体十二学級から十八学級の位が小・中学校を問わず一番運営しやすい。能率のよき学級数だということが言われておるわけでござります。現実には中学校で言いますと昭和三十七年を頂上にいたしましてベビーブームの子供はほとんど高校に今年で大部分が入ってしまったわけでございまして、小・中学校ともそれ以後は順次生徒数が減少しております。これは、今々ところ小学校に入ってくる生徒のところを、見ましても減少が続けております。ところが底をついたというふうなところまで至らない状態になっておるわけでございまして、君塚議員さんのとおりでございます。

規模等については特に統合学区の調整ということが必要に
なつてくると思うわけでございます。その方向に果ても
市でも長期計画ということを今進めつつあります
ので、学校の問題等におきまゝては是非統合という
ふうな問題を今後大きく取り上げて皆さうやり協力
をいただきたくと思うわけでございます。

ただ住民感情というような問題がございますがいろい
ろ要旨説明の中で世の中が進んでいきますし、交通
事情も非常に発達してありますので、ただ今の交通
費の問題等につきまゝては極めて適切なかや資
料をいただきまゝて感謝するわけでございます。

実際問題といったまゝて統合ということになります
住民感情ということは大なり問題でありまゝて子供は大
なことはないが実態でございます。

例えば私は二十年前に北条の学校におりました。が北条の学校に勤務してありましたときに潮留橋を中心にして北条の学校と館山の学校が衝突することがあった位でございます。

二中を作るときには、館山小学校、北条小学校と一つにしたら問題があるのではないかということであつたが、実際一緒にしてしまふと生徒は何にもない。

館山中学校にしても大人一人は大へんな問題を起す。たわけでございますが生徒は登校してしまつてはとんど一つの問題もございません。こういうことでございませう。で、長い間大人の方々が自分の母校で教つた学校が統廃合するということになると、そういうところの問題があると思つたわけでございます。そこで、それをどうスミースミに統合していくということになると、地区いろいろ

いろいろリーダーの方々の力をいただき、住民のすべてが納得の上でそれらの要望を聞きつつやっていくということが大事ではないか。そういうようなことを特に感ずるわけでございます。統合というようなか方向にも願ひしなけりばならない問題とは思っているわけでございます。よろしくお願いいたします。

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時十五分 休憩

午前十一時三十分 再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
通告による一般質問、辻田実君登壇願います。

(一〇番議員登壇)(拍手)

一〇番(辻田実君)市と部落会すなわち町内会との関係についてどのような現状になっているのか。そうして今後、どうようにしていくのか。市費問申し上げたいと思います。まず最初に市では部落会という団体とどうようにお考えになっておるのか。明らかにしたいと思うのでございます。すなわち部落会は法律^的に見て地方自治体の一部機関として見ているのか。さらには市役所と特別の契約をしている団体なのか。さもない場合は慣例的に一定の申し合あせの事項が継続^されている団体なのか。明らかにしたいと思うのでございます。このことは申すまでもなく当然市役所としてなければならぬ行政的事項を部落会またはそれに準ずる団体に委託的にいかも公然と行政事務を依頼しているからでございます。

例えば、共同募金の割り当て目標を部落会に示し、任意のとは申せ、部落においてはなれば義務的、強制的方法でなさいてゐるわうでございます。

すなわち二つうものは本来であるならば、国民の善意により自発的になさいるところにその意義があるものであります。

しかしながら現状では共同募金や歳末助け合いの真の意義が全く失なわれてしまつてゐる。二つうなことを私は市役所で部落会に依頼する根拠はどこにあるか明らかにしてもらいたいのでござります。

私が二つうなことを申し上げるうは二種、募金を扱うのに部落の役員がどのほど苦勞してゐるかというところを認識してもらいたいとともに募金する方法について、正しく事故が起きたときの責任の処理の方法をどう

ようにしていくか。この点を明らかにしてもらいたいからで
ございます。

次に夏の期間中に実施されている清掃並びに消毒等
の問題でございますが、これは地方自治法第二條
第三項に示されている市町村の事務事項内になつて
いるのでございます。

それとほとんど部落会に委任されておりますが、この点に
ついて部落会が一つかりているところと部落会の有
名無実のところでは、その実施方法は全く異なつて
おるわけでございます。それはかりて置く。一所懸命にや
つているところでは全然消毒を実施していない地域があ
るためにその効果が抹消されているところがあるわけであります。
このように部落会が内容によつて消毒という事例一つを
取つても平等性を欠いている点をどうようにお考えにな

っているかお伺いしたいと存ずるうであります。

三番目に街路灯のことでございますが、街路灯はおおむね
次の三種類に分けられると思うのであります。

一つは橋とか公園の公共施設の場に建てられ、市役所
で管理するものと、もう一つは防犯灯を建てて防犯協
力会と部落会で経費を持って維持しているものでござ
います。

さらにもう一つは個人が個人の経費で建てて管理してい
る街灯があると思うのでございます。こゝうち特に二
番目の防犯協力会と部落会によって維持される街灯
が問題になるのでございます。

そのために金市見たときに必要な場所に必ず建て
ているというふうではない。部落会が強い弱いによって地
域が明かるく分かれているか、分かっていないかという結果

になつてゐるでございます。

街灯も多く持つてゐるところで部落の財政的負担が莫大であることさどのようなにお考へになつてゐるか、お伺いしたいでございます。

四番目に連絡員による文書のことでございます。

そこで、連絡員がいかなる方法でいかなる資格で、いかなる身分で設置されてゐるのか、まず、明らかにしないのでございます。このことは、ほとんどが連絡員が部落会長も兼ねてゐる現状であるからです。

兼ねてゐるという点、聞かえがよいんですが、実際には部落会長が連絡員になつてゐる、という方が適切であると思つてゐる位多いでございます。

従つて連絡員は、ほとんど部落から推薦で市役所から行政事務の一部を委任され、それを処理する

資格があるかないかは二、三つとなっている。一が多分に伺
わゆると思うのでございます。この点はどうかうかお伺
いしたいのでございます。

すなわち保険料の徴収令書、配布やさらには納税
組合に加入してないところの税金の令書をはじめとし
て相当に大切と思われるところの会議の案の状などが
連絡員を通してかなり配付されてゐる点があるから
でございます。また私自身非常に大切な会議の案
内等が会議が終わつてから受け取つたことがあるわけ
でございます。今まで過ぎたことと思つてあきらめておき
まうたが、たびかさなることと全般的にこのようないことが
多いということをも最近いろいろ人から伺いますので、こ
ういふ点について明らかにしておきたいと思つてあります。
なぜ会議や集会の期日に間に合わない文書を内容

を確かめたいで發信するよう掛ことをお願いするが、
その点について私はいろいろの問題がどのようなになっておる
のか十分に伺いたいのでございます。

五番目に回覧板のことでございます。回覧板は市民の
便利をはかるために官民一体となった行政の積極的伝
達の遺産だと思ひます。そこで回覧板の善意義と運用
をどのように考えているのか、お伺いしたのでございます。
すなわち回覧板の内容は日常生活に欠くことので
きないいろいろ問題、教育、衛生、民生に及ぶたくさん
の市民の要望から伝達するすべてが回覧板を中心にな
して送られてゐるからでございます。

従つて回覧板も見落とすと大へんなことになる場合
がたびたびあると思ひます。

例えば子供の手洗注射の結核の市民診断さらには、

かぜり予防注射、最近ありまゝのところ、質屋、質物
の処分とか、こういうような問題は、枚挙に暇がないと思
うのであります。

一かゝるがうにも回覧板が部落によつてはいろいろ
事情で円滑に回覧されない場合もあると思う。

回覧に必要な経費、捻出に苦勞している部落もある
わけでございますが、この点もどうように考えているか、お
伺いしたいと存する次第でございます。

以上、五つ、面を中心に市、答弁と市説明をいたいた上
で、それと関連して、総括的に以上の事項について明確
かつ、わかりやすく問題を明うかにしていただきたいと思
うのでございます。

その第一は、部落会に委託的に頼んでおる事項に事
故があつた場合、その責任は、どう範囲までが行政責

任となるのか、または連絡員の場合にはその責任の
限界がどの程度に及ぶものか、示していただきたいと思います。
でございます。

それに関連して連絡員が行政的身分と報酬はどの程
度か参考までにお伺いしたいと思うのでございます。

第二に部落会が非常に活発な地域と有名無実化
しているところの部落における格差は日常生活に直
結しているだけに実に大きな問題であろうと思うのであ
ります。この点をどのように処理しているのか、そうして
今後どのように改善していくのか、中説明をお願いしたいと思
います。どうでございます。

第三に土木費、教育費、地元負担金でございます。
これはすでに予算化されているわけでございます。既定
の事実でございますが、實際上、このよう負担金が、

部落会よりそれが受け入れられておる。この点について、どのように思っているのか、納得していく中説明を願いたいと思うのでございます。

例えば部落会林台のところでは、未事業ができないという結果が生まぬような心配がミニに生じてくるからでございます。

第四に部落会が行政的業務を処理する上に非常に苦勞しておるのでございますが、その点とどうように考えているのか、お伺いしたいと思います。

特に金銭的問題についてもっと保障していく必要があると思うのでございますが、その調査をする音ん思があるのか、この点を伺い、細かい点については、再質問をしてみたいと思うのでございます。以上。

(市長登壇)

市長(本間譲君) 辻田議員さんの質問に対してお
答へ申し上げます。

まず、市と部落会との関係はどうなっているかという質問
間でございますが、法律的には、市と部落会とは何の関係
でもございません。

ただ市民の福祉増進をモットーとして地方自治の推進
をはかる行政機構として円満な運営をはかるには、
部落会等より申し出により連絡員に委嘱して円満
な広報、文書回覧等の周知が必要であろうと思つ
たのでございます。

法的根拠といつても別でございますが、熊山市
連絡員設置条例により行なっているわけでございます。
二番目の件でございしますが、現在、市が部落会を
通して委託的に頼んでおりますものには、各行政分掌

により多少性質を異にするものもあると思いますが、
広報、個人宛文書、回覧文書、配布のほか、蠅、蚊、
消毒、駆除等の斡旋、予防注射、簡単な調査事務
その他福祉協議会等、歳末、日赤、共同募金等が
ございます。

第三番目、前記事項について任命権、その責任の所在
は市長にあると思われますが、委嘱後の業務につき
ましても個人的な民法上の責任があると思われます。
なお、街灯の件のお話がございますが、これは市でやったも
のは市、防犯協力会、ものは防犯協力会、おのおの所
属の人たちが担当しております。今後、もうそういう方
法でやりたいと思っております。

四番目、部落会、ないところと活発な部落会との
格差、是正について、市質問と存しますが、現在の部

落会。運営は自主的にあるまでも、運営されるベ
きもので、市が直接に関与することはないと存じます
ので、やう承願したいと思います。

回覧板の徹底をはかるためには、連絡員を各願
い、まゝやっておる次でございす。

五番目、教育の關係については、その性質上、全額市
費で執行すべきと思ひますが、市財政事情により
ある部面に対しては一部地元負担に持たざるを得
ない事情でございす。

土木關係の事業におきましては、受益者、負担と
公費支弁によつて、このことはやむを得ない方法で
あると思ひますが、現在、国、県等においても同様、
処置によつて行なわれてゐるやうでございす。

その負担比率については、事業の性質と受益者負

担能力等を考慮して、その都度、適宜に決定し、実施しておりますが、将来財政事情が好転しない限りは、一部負担金を軽減して参りたいと考えております次第でございます。あとは逐条的に願いたいと思います。

○一番(井田実君) ぐくおおざっぱに中答を願ったわけでございますが、この種の問題がもつと具体的に明らかにならないばならぬと思ひますので、一つや質問いたします。

まず最初に部落会につきまゝて要するに部落会から申し出に依り、部落の区長を選任してあるということでございます。これにつきまゝでは、金く市と法的な関係とか申し合はせ事項というのではないという判断をしてよろしうございますか。

その点についてお伺いしたいと思います。

そのことは市長からお答えがございまして、たように事務事
 度の依頼は確かにしてあるということが、はつきり中答
 へ願ったわけでございしますけれども、これにつきましては、
 例えば子供の予防注射とか、さらには最近のインフル
 エンザの予防注射さらには貨物の処分問題について回
 覧板が期日を過ぎて回されてきて、会議の案内が
 過ぎてから回わってきた。こういう問題があるわけで、
 ございしますけれども、これについて部落長なりそう
 いうものと直接市との関係がないということに、な
 りますと、当然期日が過ぎたものについて行政事務の
 一部でございしますから、それらが市民に伝達にできない
 ままに一部の人たちによつて、その点について、こういう件数
 が相当あるように聞いてあるわけでございしますが、その点

を明らかにしていきたいと思っております。

庶務課長(山口実君)ただ今、第一点の問題でございますが、現在市で行なつてゐる業務はあくまでも部落会でせめて、その部落に属する連絡員にも願ひてゐるわけでございませう。従ひまして連絡員によりまして市から、いろいろ連絡事務が流れてゐるわけでございまして、うちの方の課といったしましても、主管課の要望を受け、ましてなるべく部落全員末端に伝達する手段、方法等をたえず検討いたしまして、連絡文書を各部落の連絡員にも願ひてゐるわけでございまして、館山市内に百六十近く、連絡員がございまして、たまには、そういうたそを来たすような状況がございしますが、なるべくそういった事故の起こらないようにたえず、連絡員等の指導をして参つてゐるわけでございませう。

一ッ番(廿田実君)その点基本になるので明らかにして
いきたいと思います。

連絡員が資格というのはどういう資格になつてゐるのか。
任命の方法について先ほど申し上げましたようにどうい
う資格を持つてゐるのか。一部の行政事務を依頼でき
得る人なのか。どうかという点について吟味した上でもつて
おらしてゐるか。この点について私は今少く見解を明らかに
していただきたいと思います。思うわけでございます。

庶務課長(山口実君)私の方でも願ひてゐるうは行政的な
大きい責任を持たせないで市からう連絡文書を末端
まで流す。そういうふうには市長の名によりまして連絡員
を任命してゐるわけでございます。

一ッ番(廿田実君)私は極論的に申し上げますけれども今
の狀態がさらに推進していくならば、部落の役員の引き

受け手がなくなる。

報酬の問題をいふを勘案いたしまして私は当然、連絡員というのは地方公務員法、三條、三項に適用するところ、非常勤の取員、臨時取員という項の中で当然扱われるべき性質のものであるというふうに思わうわけでございしますけれども、そうなってくると私は当然、連絡員等が直接かかったところの費用、その面、十分弁償してやる義務、そういうものが、私はある程度必要ではないか、そういう点については多少の費用というものが支払われておるようではございますけれども、その点が非常に不明確でございまして、打ち切りのごく少額のものがいつておるといふことでございしますが、この点につきまして、まゝでも、どのような考えになつておるか。

例えば、今申し上げました三條、三項、非常勤の

特別取というものにあてはまるのか。どうなのか。その点についてお伺いいたします。

庶務課長（山口実君）ただ今、私どもが扱ってゐる連絡員市からお願いする文書の連絡につきます。でも、たゞ研究してゐるわけですが、市から各人に連絡する文書、本来ならば全部文書でもって流せばいいわけですが、さすがに、市から伝達するものが文書のけでもって、それで自治体住民の行政がうまくいくか、こういう非常にむづかしい問題に立ち至つてゐるわけですが、いま、現在、予算化の段階におきまして、文書一本にするか、連絡委員方法を採用するか、いつも問題になつてゐるわけですが、

文書でやった場合、自治体住民のつながりが、親しみがなくなるんではないかということもあるわけですが、

従来通り連絡員方式でゐてゐるわけでございますが、
この点いつも研究課題になつてゐるわけでございます。て
昭和三十九年の予算査定段階においてはもういつべん
研究しようではないか、そういうことで事務を進めており
ます。

○番(廿田実君) その点につきまして大体内容はわかります
が、市の方ではもっと市行政事務を扱う方には、この人
なら本当にいいのではないかという資格、そういうものを吟
味してやつていく。そうしていろんな文書の連絡とか、重要
な書類の配布についてそういう事故がないようにする
ような意向があるかどうか、お伺いしたいと思つてわ
けでございます。

○議長(黒川佐太郎君) 暫時休憩いたします。

午後 零時 三分 休憩

午後 一時 二十五分 再開

議長(黒川佐太郎君) 午後、出席議員数三十五名、

休憩前に引き続き本会議を開きます。

付田議員の質問を継続いたします。

庶務課長(山口実君) 付田議員の質問について回答申し上げます。

連絡員の身分でございますが、これは付田議員のいわ

る通り、地方公務員法、第三十三条第三項非常勤に

属する職員、次にこのよう推薦方法といたしましては、

一応部落会でもって推薦した方につきまして、さらに

市長の方で検討いたしまして、このよう方々を推薦し

ているのが現状でございます。

次に連絡員に對します。従来、文書を送つてござい
ますが、私ども常にこの件につきまゝて検討しておつたうでござい
ますが、まだまだ研究を催めなければいけない点が多々
あるわけでございます。

今後この二点をさらに検討いたしまして、連絡事務が
スムーズにいくように努めます。

○一番(辻田実君)先ほど市長さんの答弁の中にありますように、
部落は直接市には関係はないということをはつきり言わ
れておりますが、部落の連絡員ということになると、連絡
員という資格の中に於いて、館山市の特別取員というこ
とで非常に強いつながりがあるというふうに認定さ
れるわけですから、もうさういふと、もうさういふと
した責任の所在ということについても、やはり明確にさ
ねなければならぬのではないかと、いうふうに思いますが、

この点について市長さんへ答弁は根本的に違うのではないかということですが、その見解をお伺いします。さらに私が文書の回覧板で連絡する場合に先ほど申し上げましたように連絡員のところにはきちんといっておるということは知っておるうでございします。しかしながら市内会各選区 そういういくつかの単位に分かれる行政区ですね。そこに回覧板を回らすときに例えば班長や、組長やが勤め人やなんかにないということになるとそこで二日位遅れる。

回覧を回わしたとき一番目、二番目、人がたまにいないとかえてしまう。こういう形でだれに責任があるかわからないけれども、期限が切れた案内文書というものが事実上おるといふことが相当ある。

今回実施されましたインフルエンザの予防についても賛

物の売却の問題についてもそうでございます。

子供の予防注射とかそういうものも一ぱいばやっており
ますが、そういうものについて私は非常に多くの人たちから
あんなことはない。終ってしまつてから、回覧板がきて
どうするとか、区長さんうところにいったらおれは、そうい
うことをいわれる筋合ひはない。市にいていけ、こうい
う事実があるわけでございまして、こういうものについては
確かに私は行政機構上う欠陥というべきものだと思つ
わけでございます。

さらに私はもう一つ付け加えたいのは、極端なものは税金
の令書、さんかいの場合、納税組合のところは、まあわない
んですが、あり令書は、十日、十五日前に区長のところに
いくかもしれないんですが、納める期日が切れてから、個人のと
ころに回す、という事例も一、二聞いておるわけでござ

ございます。こういうことはあり得ることだと思ひます。

三つにとき責任とか市民の苦痛、そういうようなものを処理する機關なり、そういうものを受け止める有力なそういう部門というものがあつていかなるべきだ、特に市民全体を相手にして地方公務員法や三条三項の中でもつてある何十名の人々たちを、実際に市長や片腕となり動いておるわけでございますから、もつとそれに対するところの物に両面指導方針を明らかにしていかないと、今後この種の問題について事故があつてからでは、取り返しがつかなくなると私は思ふわけです。

そういう面についてどうふうにお考えになつておるか、具体的に伺ひたいと思ふわけです。

・助役(小出武男君) 私から申説明申上げます。

連絡員制度と申しますのは、いうならば市と住民の

間、便宜機關として一応採用してあるわけでございます。
してその基礎は自治法によつて市が特別な付属機関
として設定したわけでございますが、個々にわたりますと
ただいま辻田議員から申さるまいにいろいろまだ
矛盾したり或いは不徹底な点が相当あると思ひます。
これは今申しますように本當に法制化されてすべて
すっきりした制度でないだけに、そういう点も出てくる
ということがいえると思ひます。従いまゝ市としては
あくまで地区の代表者から選ばれたものというものが
委員として資格条件と申しますか、任命をする
方法として区域内の全世帯の同意を得て設定され
た組織から民主的に選ばれたものであつて、市が要望
する行政連絡事務の周知徹底をしてやつてよろう、
お手伝いしようという意に因りある人を推薦されたもの

を一応適任者と見ておるわけでございます。

そういう関係で結ばれた機構でありますので、私どもにおきましては、その間におけるいろいろな多量の事、故は名目上は当然市の責任でございすが、指導や分野におきましては、そういうことやないようにすることを理想に考えるわけでございます。

従来やり方を考えて見ますと、非常に市のやり方がまずいために連絡員に過当な労務を要求する場合もございします。

さらにまだ調査とかその他につきましても非常に念を入った調査などがありますと、調査員が苦勞する面もあると思ひます。

こういう点については、先ほど来主管課長申しますように、今後課題として十分検討しまして、そういう慎重

な負担をさせないように改定して指導しなければならぬ
と思ひます。

実はこの問題で二週間も話が出たんですが各課から
まじまじに回覧板の内容になるものを次々に送きよ
うでは受ける方では大へんである。月に三べんとか一
週間に一回とかいうふうな時期をきめて、それになるべく
各課は協力して聞に合わしてその日に出すという
ふうなことをしたら、やりとりする時間を食ったり、混乱させ
ることを防ぐ元にもなるのではないか。こういうことも考へて
るのでございまして、それやこれやいろいろ研究してやらせけ
ればならない点が多いと思ひますので、質問の趣旨は
よくわかりますので、そういう点について十分検討して、こち
らも非常に便利である。また地域住民のためにも便
利であるという中間機関としての機能がうまく果たせ

るように私も勉強したいと思います。

○一番(辻田実君) 今や中答弁でこれから改善していくというところでございます。私は要望意見を含めてもう一つ伺いたいわけですから、この法律を見ますると、「町村の部落駐在員はやはり特別取に該当するものである」ということで二十六年三月十二日にそういう実例がはつきり示されておる。

そうすると私が先ほど申し上げましたように連絡員の報酬というものは各部落一戸当たりについて二百円見当でもってその頭を打ち切りでもってやるという形等もあるわけでございます。こういう面につきましては特別取の報酬とかそういうものもその事項についてやはりきちんとするということも考えなければならぬ。そういうあいまいさがあるから私は現在、部落

云々ということよりも、部落に行政事務を委託ということがふえてゐるわけでございます。私はここではつまりまておきたいことは、市の行政事務に關係があるやうなことにについては、当然部落とかいうことは關係がない。市行政機關の中で本當の職員を使つてやるということが本當であつて、現在の実績はそういう実績にない。

今後部落に対する補助云々ということになると、自治法なんか問題がありまして制限されると思ひますけれども、非常勤の特別取という形で行政事務を連絡員が執行するに當つてかかる費用の弁償等については十分見てやるということでは部落と接する必要があると思ひます。

この点について今後やつていけるものやうか。そういう音に向があるのかないやうか、お伺いしたいと思ひうわけです。

。助役（小虫武男君）よく趣旨は了解します。

現在、費用弁償としてはやっております。ただ連絡事務費としてある基準をもって算定三千円から六万円以内という事例になっておるわけでございますが、連絡員はあくまでも部落に入って指導の面を担当させるのが今の階段ではまずいというので単に連絡と調査、この二面を重点は現況は考えているために報酬でなく事務費の負担をするというたてまえを取つていふと思ひます。今後仮りに非常勤の市役職員として一部指導の面までタッチさせるというような階段に至ります。さらば、やはり村田議員のおっしゃるように事務費だけではまずい点も出てきはしなかつたかと思ひますが、今これをどうするということはまだ踏み切りがついておりませんので、これも含めまして将来の課題として研

究いていきたいと思ひます。

一〇番(社田実君)時間がございせんので、最後、質問にいたりたいと思ひうわけですが、街灯の問題と歳末助け合い等、問題について、中質問したいわけでございます。

街灯の場合、先ほど申し上げましたように防犯協力会では、年次計画でもって五、六十という街灯を設置してまいります。電灯の維持というのは、部落でもって維持する。一灯について二百円、一日の街灯料でございます。年間にして二千四百円、それを納め得たいところ、部落では一灯も当てられたいという現状があるわけでございますが、これらについてどういうふうにするのか。

私達、部落については相当数、街灯があるために、部落費、半分近く、電灯料に消費されておる。電

灯料というものは部落費の中で占める割合が高い。町を明かるくするということでもって、それさどうように考えておるか。二つについて、具体的に、本来であれば、街灯等については、市の方で料金を払うのも当然だろうと思いますが、これは、公費施設だけに終わっており、そこで街灯に対するかような部落会の弱いところ、指導等をどうするかということをお伺いしたいと思えます。もう一つは、歳末助け合いの問題とか、募金の問題でございますけれども、これは、いい悪いは別といたしまして、白浜町では募金については町内会に対して割り当てをしない。町独自で募金をやっていくということ、新聞紙上で見ております。

それがある程度必要ではないかと思えますけれども、この点について部落に対して割り当てとかそういうものを

強制的とは言いませんが、割り当てをすれば強制的にな
ってゐるわけでございますが、これを今後どういうふうな
していくか、これを聞いて質問を打ち切りたいと思ひます
からよろしく願ひたいと思ひます。

・助役（小出武男君）市内の電灯の問題でございます
すが、これについては過去におきまして防犯協力会との
間にいろいろ協定をいたしたことがございますが、原
則として市内を明かるくすることは非常に望ま
いことでございまして、できるならば、市が相当な援助
をすればいいということは当然、考えてゐるわけでござ
います。やはり承知の通り限度がないといわれる位多くな
る可能性を持つてゐる一つの仕事だと思ひます。
そうした関係から、それぞれその所属設置者の負担に
よつていくのだという原則を取りまして、市が市の必要

上ゐるものについては、全部市が負担する。現在二百八十灯でございます。

さらに防犯協力会にも市も補助してありますから防犯灯につきましては防犯協力会が負担によつてやるものである。さらに特別に町内会とか部落会において必要なものについては部落が負担において調弁する。こういうふうな負担区分を原則的に分けまして、この考え方は従来もそうだと思います。

各市の状況を調査した上でございますが、やはり、館山でやっておりますような方法を取つておるところがほとんどでございます。

従いまして、貧弱な部落が暗くなりほしくないかということになると、思います。こういう点について、一からば、その部外だけに市が特別する、かということになります。

非常に選択がむずかしいと思いますが、これはやはり今の段階ではそれなりの方でやってもらうという一か所しかないと思います。

それからいろいろ寄付・募金などを割り当てようという結果的にはなっておりますが、これはやはり承知のとおり、例えば、共同募金ナリバーミーでも、県において募金委員会がございまして、一つの目標を立てるわけでございます。

これによっていろんな基準があつて人口等が基準になろうと思ひますが、館山市には大体幾らというのが割り当てではなくて、本部に言わせれば、目標であるということになるわけでございますが、やはり市におきましてもその目標を達成するためには地区にどういう目標で集めればいいのかということ目標として決定するわけでございます。

結果から申しますと、みようによつては、目標は割り当て

強判まではしませんですが、取り扱う人は目標に達することを希望するわけでございますので、相当強く集めることに努力する関係上無理なことになる面も現われるかと思いますが、あくまでも私どもとしては、一としても、一たものは一つの目標としてやっていきますので、必ずしもそれに集まらないからといってどこからも制裁を受ける理由もなく、また制度にもなっておりません。これが現状でございます。

議長(黒川佐太郎君)以上でもうお田議員の質問を終了いたしまして。日程第三、館山市、富田町、三芳村上水道組合議会議員の選挙を行います。

上水道組合議会議員の本市の議員は十名であります。おはかりいたします。

選挙の方法は、地方自治法百十八条第二項の規定により

指名推薦の方法で決定いたしたいと思いますが、これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よって、~~提案~~の方々は指名推薦によることに決定いたしました。
重ねておはかりいたします。

指名の方法は議長において指名することになっていますか。
と思いましたが、これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よって、議長において指名することに決定いたしました。
これより指名いたします。

組合議会議員 小柴孝君 望月照正君

安西益男君 志村信作君 藤田好治君

鈴木孝君 山田教字君 鈴木市蔵君
安次徳順君 松本藤太郎君 以上十議員君を
指名いたします。

おはかりいたします。ただ今議長において指名いたしま
した十議員を上水道組合議会に議員として当選人
と定めますことに決まり異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 決まり異議なしと認めます。よって

ただ今指名いたしました十議員君が館山市富浦町
三芳村上水道組合議会議員に当選されました。

ただ今組合議会議員に当選されました十議員
君が議場におられますので、本席より会議規則第三
十二条第三項の規定により告知いたします。

(書記朗読)

日程第四議案第九十一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第九十一号 館山市特別会計条例の制定について。
庶務課長(山口 実君) 議案第九十一号について説明申し上げます。

地方公共団体は予算は一般会計だけで維持するが原則であるのでありますが、公営企業や収益事業などのようにその分野に関する数字を明確にしておくために条例でもって特別会計を設ける。このように今度の自治法が改正になったのでございます。

従いまして特別会計条例をここに設けようとするものでございます。

議長(黒川佐太郎君) 本質疑ないようでございますので本年はこれにて質疑を打ち切り討論を省略して原案

通り可決するに由異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 由異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り可決せしめよう。

日程第五 議案第九十二号及び議案第九十六号一括
上程いたします。

(書記朗読)

議案第九十二号 非常勤者特別取組取資に係る

報酬及び費用弁償に関する条例の

一部を改正する条例の制定について

議案第九十六号

館山市取資給与条例の一部を改正

する条例制定について

秘書課長(小倉澄男君) ただ今提案された議案につきまして

由説明申し上げます。

まず、議案第九十六号の方から、説明申し上げたいと思
います。これは先般、人事院勧告により、まして国家
公務員並びに地方公務員、ベース、改定が勧告された
のでありますが、このたび国家公務員におきましても、
閣議決定となりまして、本臨時国会に提案可決を
見ております。まだその具体的な方法につきまして
は流れて参っておりませんが、特にベース勧告の中に盛
られております期末手当の〇・一カ月、アップというこ
とを取り上げまして、基本条例を「百分の二百」を「百分
の二百十」に改める条例を提案した次第でございます。
それから、九十二号議案でございますが、これは、これに關連
いたしまして、手当を「百分の二百三十」を「百分の二百
四十」に改める議案でございます。

それからただ今まで、日額条例化をいっているものがあり

まいりたいで、ここにも願います。次でございす。

なお、ここに議案の配列上、うちほど、審議をいたたくところ、特別取報酬審議会委員「七百円」が入つておりますが、この点よろしく了承をほどをお願いいたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや、異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）や、異議なしと認めます。

よつて本案は原案通り決まりました。

日程第六、議案第九十三号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第九十三号、館市特別取報酬等審議会条例の制定に

ついて

秘書課長（小倉澄男君）議案第九十三号について中説明申し上げます。

本条例案は先般の自治省事務次官の通達によりまして特別取に対して報酬等に関し、第三者の意見を見聞して適正を期せらるゝといふような通達によりまして、果におきましても当初は全体的な審議委員会といふようなものを計画いたしまして設置する予定であつたようですが、それが矢つぎ早に各市町村におきまして、各自の委員会が設置されてゐるといふことで、方針をかえまして結局各市町村自体におきまして、このうちを設置するといふことで、総務部長通達によりまして、速やかにこれを設置せらるゝといふ通達が出たところによりまして、本市におきましても考えておりましたところ

各市もほとんど市ができておりますが、まだできておりません市におきましても、この十二月議会において、大体条例を提案するというようなことでございますので、歩調を合わせ^まうて、館山市においてもこの条例案を提案した次方でございます。

内容といたしましては、この条例の中で十分おわかりであらうと思いますが、あくまでも市議会議員並びに市長、助役、収入役の報酬額について、第三者的な意見を聞くという意味におきまして、審議会を構成いたしまして、市長がその額を提案いたす前には、審議会^の意見を聞いてのち、議会に提案する。そういうような順序を遵^{したが}うする上におきまする条例が、この全部でございます。

二三番(中村省吾君) 二三市質問いたしたいと思ひます。

が、第二条の「市長の諮問に応じ市議会議員の報酬
等」と市議会議員の報酬と述べたこと。これはわ
かるのはわかるのでございますが、なぜこういうことを使ったか、
館山市特別取組と置きかへることはできなかったか、その
点が第三条を見るとそういう意味のことになるわけですが、
第二条であえて「市議会議員」ということを見ますると
議員だけに見られるような懸念があるということとはむしろ
特別取組といった方がよかつたのではないか、これが一点。

第二点として、第四条の第二項でございすけれども、一で
ございす。「市の区域内の公共的団体」という字句が
ございす。公共的団体とは具体的にどういうものか、
お示し願います。

それから第二の「学識経験」ということが具
体的にどういうことをさすのか、以上、点々説明願ひ

ます。

秘書課長(小倉澄男君)市説明申上げます。

第一点の第二条の市賃問でございしますが、まず最初に申上げますが、果が二つにつきまゝして、総務部長通津をよこしたてありますが、その条例準則に準拠してやりまゝのためにこういうことになりまゝした。なお、その内容について申上げますと、注意事項として「市町村長は、市町村議会議員額に関する条例を議会に提出しようとするときは、あらかじめ、当該報酬額について、当該審議会に意見を聞かなければならぬ」とすること。その次に「なお、市町村長は、市町村長、助役、収入役の給料の額についても、同様の手続きについて措置すること」が適当であること。おそろくこういうふうな自治条例にすゝまゝして、こういう条例案ができたやうではない。

ということになります。

それから第二点の具体的な「公共的団体等」を代表する
ということにつきましては、いかにいたしても説明がうっておる
のでございますが、「農林水産団体、商工団体、労働団
体、青年団等」を「公共的団体」という説明が加え
られております。なお「学識経験者」ということは、私
詳しく説明申し上げられないのでございますが、いわゆる
社会的に十分な学識を備えた方を「学識経験者」
というのではないかと。そういうようなことで解決をいたして
提案した次第でございます。

・二三番（中村省吾君）第二条についてはわかりませんけれども
よろしくございします。別に内容がかわるわけではござい
ませんから第四条の点ですが、「公共的」ということは意味
がなすということですね。

通常使つておる「公共的」というやうな意味がない。そういうことになるわけですね。

例えば婦人会とかそういうやうなものには「公共的」ではないですね。我々が通常使つてゐる公共という意味ではないわけですね。

それから市や区内の公共的団体等を代表する。重ねてや質問しますが、市の居住権というものがあるかどうか。そういう意味で「公共的団体と代表して」なおかつ市の居住権があるかないか。そういう点を明確にしていただきたいと思います。

それから「学識経験」もう少し具体的にいつてもらいたいと申し上げます。これは大学を出たから学識があるという事ではないと思います。

小学校だけでも立派な人もゐると思います。そういう

ことがあるから「学識」というものはそういう物指しではかる
かという懸念があるからお聞きしたわけです。

それから「経験」という字句が入っておりますから、こういう
特別取の報酬等を審議する条例でございますから、
その点でなお経験というのをどう点において市長が發任
してくるか、こういうことでございます。

・秘書課長(小倉澄男君)お答えいたします。

最初「公共的」という意味は確かに中村議員が申さ
なように我々が「公共的」というのはオフィシャル官庁直屬
という意味ではなく、婦人団体、青年団体、労働団体
そういうものも入るのだということの解釈でございます。

「学識経験」を有するもの」ということはただ今申さ
れたとおりでございます。大学を出たから、そのものが、

「学識経験」を有するものではない。あくまでも多年

「経験がその人の人格を作り、衆目の見るところ、学識経験ということをも「学識経験者」ということで優秀して参りたいという気持ちでございます。」

居住権でございますが、あくまでも市の行政をつかさどらる方々の報酬を審議するものでありますから、市民の一員でなければならぬと考えております。

二三番(中村省吾君)「学識経験」の中では、居住権というものがどうなるかという点です。

秘書課長(小倉澄男君)「あくまでも、市、市民であるということも基礎条件として考えております。」

二三番(中村省吾君)「そうしますと、市民であつて市の区域内、公共的団体を代表してあり、資格があつて、なおかつ、市の居住者ということになるわけですが、「学識経験」を有する」館山市民ということになるわけですが、必ら

ずーも当市においては第一項等について第二項もそうであるかもしれないが、特に第一項についてはその市内に公共的団体」と称するものの代表たる資格の人々が、たまたま他域からの人である。しかーしながら、勤務そのものの団体の性格からいって、その市に所屬してゐるという場合に審議委員として任命されてゐるところもあるわけですね。そうした場合でも全然資格なしとはつきりしてよろしいか。

・秘書課長（小倉登男君）それにつきまゝで、詳しく規定はございませんので、そのような方針にそつてやつて参りたいということでございます。

・一八番（西村真次君）本条例の提案はまことに時宜に適合したものであつて是非通過していただきたいと思つたものでござります。

私はただ今中村議員が質問されました点について本
当は質問したかったわけですが、ただいまの片
答弁によつて十分了解いたしました。もう一つ付け加
えまして、四条茅田項でございます。

いわゆる「第一号委員」は必要の都度委嘱して審議
が終了したときは解任される。

学識経験を有する「二号委員」は任期は二年だ。
こういう違いが見受けられるわけですが、これはどう
いうお考えでお決めになつたか、お伺いしたいと思います。

・秘書課長（小倉登男君）お答え申し上げます。

県下各市におきまして、常時審議会委員を設けて置
くところと、そう上程都度ごとに全員の新委員さんを任
命をするというふうな方式でやっておられる市が二、三ご
ざいます。ほとんど市は、このような十人全員をお願

いするといふよりも「学識経験を有する」方たちを五人
常任していただくまいして常に研究をお願いいたしまして
なおその上程が起きたときには特にただ今申し上げました
「公衆的団体等」の代表する方にいわゆる適切な意見
をさらに加えて慎重なものとします。そういう意味でござ
います。

二八番(西村真次君)よくわかりました。この問題はなるべく広い
分野から委員をお願いすることの方が、またこの条例
にそうということにもなるわけでありましてただ今うよう
な当局の考えで、その都度広い分野から委員を委
嘱するというようなやり意恩を承りまして了解いた
してまいりました。

二五番(兼生田七郎君)ちょっとお伺いいたしますが、中村議
員のや質問に対してまして当局から説明があったんです

が、その説明の中にも審議会、審議というものは、市会議員を対象とする。さらに言えば自治省の方針は市の三役も含めるんだという中、説明があつたんですが、第二条において「市会議員の報酬等に市会議員のみを対象にしたような関係がありますけれども、これは三役を含んであるのか。」

・秘書課長（小倉登男君）第二条の二については、市会議員の報酬、三役の給料を含んでおります。

・三五番（松本藤太郎君）この審議会で審議する対象が具体的に報酬、給料ということでありますが、

・秘書課長（小倉登男君）その点につきましては所管事項として、第三条にありますが、補足しておきます。三役についてもやるんだ、こういうことでございます。

・三五番（松本藤太郎君）三条の「市会議員の報酬の額を

は市長助役」どうしてもやるようにいばるならば「または
ということ。必要ございません。議会が承認を得るやうに
やうないてもいいというやうな提案理由が望ましい」という言
葉と合わせる必要もやうなくてもいいということが出てくる。
それで第二条の「等」という言葉が特別取の常勤や特
別取、非常勤や特別取、報酬給料とでもやるやうに
この「等」というのは三役が入っているということになる。
館や場合も市長助役、収入役を議員の報酬
額を決めるときと同様のようにやるならば、そういうふうな
字句がはつきりしてゐるわけです。

字句は「または」であつてもやるやうなように解釈して
いいか。この点をはつきり説明願ひたいと思ひます。
議員の場合には報酬、常勤、特別取に対しては、給料という
形を取つてゐる。そのため「等」という言葉がふたとい

うふうに私は解釈した。

手当てか費用弁償であるとか、旅費であるとか、そういうものまででは、この審議会ではやらぬ。この解釈である。

そうです。

秘書課長（小倉登男君） 松本議員のようであるとおりでございます。

三五番（松本藤太郎君） そうしますと、私はこれを見て特別取非常勤と常勤もやるんだという考え方をしておる。ところが、これを見ると間違っておる。

通達、趣旨と議員の報酬と特別取常勤はやはり審議会にかけることが望ましいというふうになっておる。

であるけれども、熊山市の審議会は常勤特別取も議員も同じように必らずやるんだというふうに解釈しているや、どうか。今後熊山市で適用する場合に議員はやる。いやし

市長、助役はやつてもやらぬでもいいという解釈をするのか。
助役（小出武男君）お答え申し上げます。ただ今の条例の語句
でございますが、これは準則、そのものを取ったがために私
ども実は細かいことを考えなかつたんです。が精神としては
いわゆる特別取全額を適用して、この審議会にかけたい
というふうに考えております。

その条文を見ましても、いいでも間違いないわけでございます。
ますので、我々として、市会議員の報酬、市長、助役、
収入役、委員会を補って決定していく。そういうふうな
解釈で、この条文は結構だろうと思っております。

三五番（荻生田七郎君）関連質問ですが、はっきり審議会
というものは、市議会議員の報酬を対象にするのが、
重点であつて、その補足的に三役をやる、だというふうな
第三条で定められておる。あえて反対しませんが、いふとも

二、市議会ということをやらずに特別職の報酬・給料
というものを、ついでに、問題はなし。

すなわち、対象を議会を目うかたきにして、お手盛りを
するから、前にも、考へを、判断する、だ、という強力な
意思が、この字句の上に表現されているように思ひわいて
ならない。ありますかどうか。

議長（黒川佐太郎君）暫時休憩いたします。

午後二時三十九分 休憩

午後二時五十五分 再開

議長（黒川佐太郎君）休憩前に引き続き、会議を開きます。
ただ、今議案第九十三号について、原案を訂正いたしたい
旨を申し出がありました。ふんについて、その理由の説明を

求めます。

。秘書課長（小倉澄男君）議案九十三号の第二条につきまして
市訂正願いたいと思います。

第二条の本文中「市議會議員の報酬等」とあります
を削除していただきまして「特別取の報酬、給料」と
いうふうに市訂正をお願いしたいと思います。

。議長（黒川佐太郎君）おはかりいたします。ただ今市訂正
の件に対して市訂正の議ありませうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（黒川佐太郎君）異議なしと認めます。よって訂正さ
れました。

。三五番（松本藤太郎君）第四条二項の二ですが、「学識経験者
有するもの」学識経験という解釈に対して先ほども市
意見があつたようですが、そういうにいたいただきたいと思いま

す。この審議会というものができたというは、何か議会にお金をすえるようなかつこう、自治省あたりは、これを表面に出してあるようですが、館山はこれにあてはまらない。と同時に今一つの見方としては、特別職の給料報酬をあげる一つは、かゝるものになる。そういうものも、ないわけではない。そういうものを受けないためには、この四つの委員の優考ですね。これが一番重要な点になると思います。

こういう点について要望として申し上げたいのは、市長さんが責任をもって委嘱されるんでしようが、特に学識経験の中に勤労者代表というふうなものを取り入れていただきたい。ということは、市民から痛くない腹を探らないような、そういうような問題が、おなじように老婆にながら申し上げるんですが、優考におきましては、そういう点を是非市長

さらに考慮願ひ、要望でありますがお願ひいたします。

○一番(辻田実君)一つだけ確認していただきたいのは、四条の二項の「市や区域内の公共的団体」ということでもって明記されておりますが、先ほども部落の公共性というもので、通告質問でもお伺いしてまいりましたが、「公共的」というもので、非常に不明瞭というんですか、「公共的な団体」という根拠ですか、非常に不明確であるわけですので私は、それをはつきりしてもらいたい。

例えばかみくだいて申し上げますと、先う議會でもって社会教育委員の選出につきまして、関係教育団体ということでは論議はなされてございますが、そのときに関係教育団体というのは、社会教育法の中に書いてあるんですが、そういう法律とかそういうものがあるのかないのか、この点を明確にしてもらいたい。さもないと、この条文が自治法や百三十八条

を受け出ておるんですから、「公共的」というものについてう解釈を明確にしたい。

市の方では、どういう団体について「公共的団体」ということと
 ちつておるのか、今「公共的団体」というのは幾つあるかとい
 うことについて把握しておるか、これからやっていくか。

それから先ほど説明の中で聞き漏らしたんですが、
 町内会が「公共的団体」の中に入っておるようにも、庫い
 ちんですが、この点についてももう一度合わせてお答え
 願いたいと思います。

・秘書課長（小倉登男君）お答えいたします。大へん不勉強
 で申し分けないのでございますが、地方自治方々第百五十七
 条にございますが、自治判例集によりまして、注釈がついて
 ありまして、その団体の説明が「農業協同組合、森林組
 合、漁業協同組合、生活協同組合、商工会議所等」

産業経済団体、養老院、育児院、赤十字社等、厚生
社会事業団体、青年団、婦人会、教育会、体育会等、
文化教育事業団体、いやくも公会的な活動を営む
ものはすべてこれに含まれ、法人たるものと否とも問わない。
という判例が出ておるうでございしますが、さらに先ほど
申し上げました通り、自治省からう通達によりまする「公
会的団体」という解釈、説明といた一まゝで、町内会
もはつきりここにうたつてあります。さらに農林水産団
体、商工団体、労働団体、婦人団体、青年団体等と
いうようなことを考えてみましたときにある程度、広義的
な解釈をくだしているうではないかということ、が推測され
るうであります。が、それ以上振り下げて、勉強しておりませ
んの。で申し上げないの。でございしますが、この程度が「公
会的団体」というふうに解釈願いたいと思ひます。

一〇番(井田実君)次に出てくる任期の面でございますけれども、公衆的団体より代表委員ですか。そう都度かわるということでございますけれども、そうすると先ほど申し上げたように該当するものは、館山市で百に達する位あるうではないかということが想定されますが、一回ごとに不特定に順繰り回わしにすることということもあり得る。私はそういう点についてどうようにお考えになつてゐるか。その都度ある団体より代表は意見が合わないから、かえちえんということになると、何々ために、たかわからないので、その点はどういうふうになつてゐるか。お伺いしたいと思つてゐます。

助役(小出武男君)実はそこまで深くは考えていないわけです。普偏常識から考えまして、こういう委員会や性格をよく考えた場合、何も委員をだらゝい回わしにやる

とかまた場合によつては順繰りに皆さん意見と聞く
には回わ—た方がいいんではないかという意見もある
ではないかと思いますが、その点はここではっきりな約束す
るところまでいつてありません。

条例が議決になりまして任命の段階でじっくり考慮
—たいと思います。

○一〇番(井田実君)こゝでいきますとすべて団体の代表になるか
ら団体の長とか代表—得る人というふうに見られると思
います。そういう論議でいきますと、館山市の青年団と
いうものは有名無実化—てゐる。こういう団体について極
端な場合、青年団というものがなくなつた、代表—得る人が
いないという場合に青年層、そういうものをはずさふて—
まうか。個人の資格でもつてあらねないのかということなん
ですが、学識経験の方に回わすということもあるでしょうが、

参考までにお伺いしたいと思います。

・助役(小出武男君) この条例がこゝまき市議場にならばやはり団体を代表するということですから、団体がなければ、これは代表にはならないと思います。

・議長(黒川佐太郎君) 本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省略、原案通り可決することに決まっております。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 市異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決されました。

日程第七、議案第九十四号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第九十四号 固定資産評価審査委員会の委員選

任について

(市長登壇)

市長（本間 譲君）審査委員につきまゝては、竹山君は前から
もやつております。二人の人がもつとも、適任であると思ひ
まゝて是非や承認願ひたいと思ひます。

一〇番（辻田 実君）私はこゝにつきまゝては異議はないんです
が、失般も議会の承認を求めらるる委員につきまゝては、
あらかじめ経歴的なものについては若干配付するよ
うにという質問があつた。そういうことをしますというこ
とを言われなわけでございますが、今回もこういう形で
おきて、前任者でもあるということでございますから、
当然、知っておかなければいけないんですが、名前もはじ
めてという状態については責任をもつて賛成ということも
言いかわるわけでございます。一か一ながら、当局が責
任を持つて出すことでございますので、別にこれを拒む
ものではございません。

ただ失般。そういうことでもって、経歴程度。もうは示す
 ということでお答えになったと思います。その点はどう
 なされたか。今後ともそういう点でやけりやういえるか。
 その点について、責任を持ってお答え願いたい。

・市長(本間譲君) 沙山君につきまゝでは前からやっております
 から市承知と思ひまゝで、おまゝでいたが今後新しく
 出します人につきまゝでは詳細について皆さんに市了解
 を得るようにおまゝだと思います。

・議長(黒川佐太郎君) 本案は二かにて質疑を打ち切り、討論
 省略原案通り同意することに市異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 市異議なしと認めます。よって本案
 は原案通り同意いたしました。

日程第八 議案第九十五号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第九十五号 館山市青年館の設置及び管理に関

する条例の制定について

。福祉事務所長(鵜沢貴寛君) 議案第九十五号につきまゝて
市説明申し上げます。

この青年館は本年度友納知事が青少年健全育成
を后発にするようにという趣旨のもとに県や補助金を
もらつて建設したものでございます。

新しい施設でもありますので自治法第二百四十四条に基
きましてこの条例を制定しようというものでございます。
第一条は設置及び目的でございます。

名称は列表にございますが今年度は上須賀と古茂口ニ
カ所に設置するもので、この十二月四日に着工いたしま
して来年の二月二十八日竣工予定でございます。

第三条は使用でございすが、青少年福祉に関する場合には、いまでもこれを使用的にすることができるといふ条でございす。

第四条 使用料は徴収しない。

第五条 使用の場合には、破損、滅失した場合の損害賠償
 第六条は管理でございすが、市の建物でございすので、市長が管理するということですが、実際にはここにございすように公共的団体、私の方で考えておるのは、地元の部落会に委託することを考えております。

細かいことは、第七条の委任につきまゝ委任者と契約を結びまゝしてきめたい、このように考えております。

○八番(西村真次君) この条例の趣旨は、まことに結構なものと思つて、わけでありすが、前に問題になりまゝた条例と同じように、字句の点で伺つてみたいと思ひます。

まず第一条でありますが、この第一条を読みなおしていただきたいと思うんですが、この条例は「設置する」というところにかかっているわけでございしますが、これは趣旨と設置の条丈とがごっちゃになつたような気がします。

設置する^{こと}重点を置くならば、この条例は「この言葉は不要だ」と思いますが、もうサーや検討願いたいと思います。それから第三条でありますけど、なだでも使用できるという点でその気持はよくわかるうであります。反面借りる人に権限を与え過ぎていゝような感^{かん}どがすると思つてあります。

「青少年福祉に寄与する場合」にはということになっておりますけれども、この寄与する^{こと}ないかということはだれがどこで認定をするのか。

その前に手続きが必要ではないか。もちろんこの認定は管理着が認定することになると思つてあります。寄与

するかどうか。ということは利用したあとでその結果を見なければわからない。寄与すると認めらるる場合にはという言葉がほいような気がするんです。「何人といえども」という言葉がさらに強いひびきを持っていると思うのであります。

どんな種類のどんな人間でも名目さえ、青少年福祉に寄与することをやるんだということをいえば、無条件に借さなければならぬのか。常識的に見ていかかわいいと思うようなものでも借さなければならぬのか。

この点について中所見をお伺いしたいと思います。

・福祉事務所長(鵜沢貫寛君) 中質問の第一点でございすが、これはおおせり通り設置と目的を一緒にしたためにこのような条文になったわけでございます。第二点の方でございすが、先ほども中説明申し上げ

ましたように、実際の運営につきましても、部落会に運営をまかせるということにしたいと考えておりますので、その認定は委託を受けまして、部落会長に権限を移譲して部落会長が認定によって運営していきたいというふうにも考えております。

字句につきましても、強いような感じを受けますけれども、実際運営としては、これで運営していくに支障がないのではないかと、このようにもなわけてございます。
。八番（西村真次君）趣旨が趣旨である。これでさうつかえないというふうなお答えですが、条例はいやうくも市が法律であります。

従いまして字句の用い方には、ほとんど細心の注意が必要ならばならぬというふうにも考えるわけでありますが、先ほどの場合と同様に、二。第一条。条文の作りかたというものは、

ことに納得がいかなうと思ひますが、このまゝでさうつかえないといつてもいいですが、

○福祉事務所長(鶴沢貫寛君) この条例制定につきまゝでは、条例の制定の方の係が庶務の方になつておりますので、庶務の方と協力してこの条例を作つたわけでございますが、私の方にはこれでさうつかえないように考へるのであります。

○大番(関武夫君) ただ今一八番議員の申しまいに、この条例の趣旨については、全く賛成でございます。其議でございます。

また第一条及び第三条について一八番議員の申言も全く同感でございます。

第一条の福祉事務所長さん、これでさうつかえないとおつしやるけれども、これを館山市の条例だとして外部に出した場合には、さうかゝうと思ふ。

「この条例」というのは削除してしまえば成り立つ。「この条例は」というかわりに本市はとでもすれば成り立つけれども、この条文うまきでは「この条例は」「設置する」では条文にならないと思いますが、考えいかがです。

・福祉事務所長(鶴沢貴寛君)おおよそ通り字句的に工合が悪いところがあると思いますが、訂正して再度提出したいと思ひます。

・議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後二時三十七分

休憩

午後三時二十八分

再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

おはかりいたします。

議案第九十五号は本日はこの程度にいたしまして次に移りたいと思いますが、これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって決定いたしまして、議案第九十七号及び議案第九十八号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第九十七号

昭和三十九年度館山市一般会計補正予算

議案第九十八号

昭和三十九年度館山市休養施設特別会計

補正予算

財政課長(長谷川広治君)議案第九十七号一般会計の補正予算について、中説明申し上げます。

第四回補正でございます。今回の補正は追加額、歳出面におきまして、四千七百四十九万一千円、追加予算

いたしております。款内の更正額が七百三十六万七千円
ございますので、差引きいたしまして、歳入追加額が四千
十二万四千円ということになります。

総額が七億四千二百二十万七千円ということになります。
予算補正書によって、説明申上げます。

人件費を除きまして、旅費で二十万。旅費は、前回九月
の補正予算に二十万追加をいたしたのでありますが、現在
の支出状況から見まして、第四、四半期分から見ても、こ
う程度、必要であるというような考えから、二十万計上いた
しました。需用費におきまして、六万円。食料費の
追加をいたしましたが、これは茶代でございます。

秘書課長（小倉澄男君）補正予算給与費明細書を
御覧いただきたいと思います。

総額におきまして、五百九十五万円、補正予算を計上

いた。たわけでございますが、この内訳とい。た。ま。う。ては
 先ほど議決をいただきました期束手当の一割増に伴う
 補正予算並びに四月当初予算編成後の人事異動
 に。ま。う。て。人件費が各部門ごとに分かれております
 ために異動うたびに異動すると更正して追加なければ
 ならないというようなことが起こり。ま。う。て。そのため非常に
 にかかりにくいということを申し上げるわけであります。が、
 結論とい。た。ま。う。て。五百九十五万円の追加をいた
 して。ま。う。て。その主たる理由は期末手当の増加分が入
 っておりますでございます。

。福祉事務所長(鶴沢寛覚君)民生費について市説明申し上げま
 社会福祉総務費の負担金で八万五千円計上いた。ま。う。た。が
 これはほとんど保護者に対します。る。た。だ。い。ま。年末助け合い
 運動が起。こ。つ。て。あります。が、市から見舞金一世帯二百円

九十世帯分を張ろうというもので見込んでございます。

四十二万七千円老人福祉、これは措置費の単価がよりまゝのためと老人ホームに入っております。館山市住民の救がふえまゝのことになります。不足額でございます。

それから児童福祉費のうち三日児童福祉施設費の中で臨時用人料十八万九千円を計上いたしまして、これはちやうど本年は保育園の保姆が病気のために長期に休んでおるものがあまゝたために臨時用人をちやうど雇用することになりまして、不足額でございます。生活保護費につきまして、扶助費で千百三十三万二千円、追加でございますが、これは今年当初に計上して、額がちやうど改正になる前の額でございます。今年になりまして生活保護費が

増額にかりましたため、不足額でございます。

農林水産課長（伊藤幸太郎君）六款農林水産費について、説明申し上げます。

農業振興費でございます。今回千四十万六千円の追加をお願いするわけでございますが、その内訳といいたしまして、まず、農業構造改善事業として、四百四十万九千円の追加でございます。

この金額は、今回区画整備事業に対します。国の補助額が決定されました追加分当初三千二百万円計上してございまして、八十四万九千円の増に決定されましたので、八十四万九千円の増額とそれから、今一つは、区画整備の事業費の中に、公営施設費として千二百万円の事業費組まっております。

この公営施設費は、単に今回農業構造改善の受益者

だけが、負担すべき性格の事業ではございませんで、二割
補正に対する三〇％の受益者負担として、今回三百六十
万円に相当します。金額を市として補助したいとい
うことでございます。でございますので、三百六十万に
十四万九千円を加えて、四百四十四万九千円の追加でござ
います。それから、次、補完対策事業費、これは、構造改善
事業の一環といたしまして、野菜ハウスを現在推めてある
わけでございますが、それに対して、二割の事業費の果
實が決定されていますので、野菜ハウスの事業に二千三百
五十九万四千円、二割の四百七十一万八千円を新たに加
わりたいというわけでございます。

それから、農機具の購入費で百十五万九千円でござい
ますが、これも当初の計画よりも繰り上げられています。
ラクター一百分が果實の補助の認定を受けました。

ので今年度におきまして、二百三十一万八千円を購入費
の二分の一を近代化施設補助といたしまして、県の認定
がうかりましたので、百十五万九千円補助いたらないと
いうことでございます。

それから、さらに協議会が補助金八万でございます
が、これも現在まで会議の運営上、どうしても不足見込
みでございますので特に補助金八万円を協議会に補
助いたらないというところで計上いたもうでございます。

合計千四百六十六万円、構造改善事業関係の追加
でございます。林業振興費で二十万六千円、追加で
ございます。これは皆さんが承知のとおり、松食の虫の
防除につきましても消毒薬の不足額を今回二十万
六千円計上いたらないというところでございます。

委託料は百四十四万一千円、委託料、今回松喰の虫

の駆除に對しまして果の方で特別の駆除対策として
九十三万六千円の果費補助が確定いたしまして本
市に對しましては十三リューベの被害木が想定され
ましてそれに對しまして九十三万六千円の補助額が決
定いたしましてたので、この額に同額の市費を加えま
して百四十四万一千円を今回松喰の虫防除委員会に
對しまして駆除の委託をこの費用をもって委託い
たいたということ、追加を計上した次でございます。
商工観光課長（小沢正治君）第一款の商工費関係で申
上げます。

二目の商工業振興費において十一万五千元追加してござ
います。これは今般たばこ小売り商組合におきま
てたばこ売り上げ増進の対策をいたしまして大口購
入者に対してサービスといったしまして五個入の袋と十

箱入ト袋ヲ二種類を新し理想によりて作成したい。
 大体十五万乃至十六万枚ということでございます。総額
 費といつて三十一万三千二百円を予定している。で
 半額補助していただきたいということがございまして、約
 半額、即ち十五万円を補助したいというものでございませ
 三、目々観光費でございますが、今般館山地域や各戸
 で城山に対する美化運動と百万募金をいたしまして、
 その額が約二十万円に達いたしましたので、それによつて新た
 につつも購入いたしまして、二つに上りまして市でも
 同額程度を購入いたしまして、総額四十万程度、苗
 木を購入して増殖しようということでございます。

第三目々観光費でございますが、これは駅前や従
 前観光協会で建築いたしまして、観光案内所を買
 収いたしまして、直接市で運営したい。まして名実

ともに館山市の観光の受付所というような形で揮毫して参りたいという事で、この案内所を四十万円で買収しようというものでございます。

土木課長（新井重助君）第八款土木費について、説明申し上げます。

二目、道路維持費におきまして、工事請負費において五十万の追加をお願いする次でございしますが、今年度は鉄道の踏み切り安全運動がございまして、踏み切りに関する事業が二三カ所ございまして、その方に費用が参りまして、一応五十万円の追加をお願いしたい。そして、今後、維持補修費に充てたいと、かように考えておるわけでございます。

原材料費において、百五十万の追加、過去におきます砂利の使用料は一応九千五カメートルほど作っております。

ます。

今後十二月から三月の雨期に入ります関係で砂利
碎石を二千立方メートル、これにすまして補修の定
金ははかりたいと考えまして、百五十万の追加をお願い
いたします。

五百二十三万の負担金補助金でございますが、これは
県道の改良と舗装の負担金でございます。

一応、その要所を申し上げますと、神戸の洲宮にござい
ます橋がかけかえにかりまして、これが百三万、那古の
正木、道路側溝の排水が悪いく、ということ、県の方
で施行いたしますが、四十万円の追加、

九重の道路改良事業が四十万円、藤原の側溝、これ
は舗装に伴う側溝でございますが、地元負担金が
十二万五千円。

大戸の舗装でございますが、これも五十万円の追加、
神余の舗装につきましても七十五万円の追加、川名、三芳
の役場の方にいます、これにprimarilyて、館山市内、
三芳村との境界までいく舗装負担金が十二万五千円、
那古の舗装百万円の負担金、農業構造改善事業
によります、山本の道路改良事業二百四十万円、
六百二十三万円、当初予算に百万円計上してござい
ますので、差額の五百二十三万円を計上いたした次第
でございます。

都市計画費でございますが、総務費におきまして
委託料十万円、これは城山に今回できます、展覧会
でございますが、これは市は負担金だけ出して、某が工事
を施行いたしますのでありますが、これは都市計画課に設
計する人がおりませんで、是非館山で設計してもらい

たい。

館山的なものを作ってもいいからということで一応私の方で設計をやりたいということで、設計料として十万円を願ひする次第でございます。

次々公園費で十五節工事請負費五十万円、城山公園整備費、これはただ今申し上げました展望台につきまゝて、算り予算が三百九十万でございます。

三百九十万で一応本体の展望台はでき上がりますがそれに付帯しますものができ上がりませんので、市費を持ち出しをいたしまして工事請負費五十万円を追加をお願いして完全なものにしたいと考えております。

庶務課長（千場伊右エ門君）第十款教育費について御説明申し上げます。

教育総務費の中の事務局費でございますが十三節の

委託料二十一万、追加をお願いいたしてあります。これは
言語障害の治療教室の開設のために準備をいた
し、まして、那古小学校の鈴木先生を研究委託した
めに当初千葉に派遣するということだったんですが、
都合によつて東京の方に一カ年いくということになつて
当初予算で六万円をお願いいたんですが、二十七万円、
必要ということで二十一万の追加をお願いいたすわけで
ございます。

次に二項の小学校費で賃金二十一万九千円の追加
をお願いいたすのは、館山小学校の用務員さんが、最初給料
の方に計上いたつてございしますが、今年四月一日から
臨時になつたために、その差額分をここに計上いたす
てございします。

次は十二節の役務費十萬九千円、更正でございします。

が、これは大災保険料、神戸小学校を一応見たうでございすが、大体今年には必要ないということで一応十数万円を更正いたした次第でございます。

それから二目の教育振興費のうち十一節需用費二十九万六千円を増でございますが、元熱水費の二十万円、これは豊房小学校が今まで水道のメーターがなく、ただということでございます。だが、特別会計のために今後独立採算のたてまえからいつて当然メーターを付けて支出するものは、つけねばならないということでは、豊房小学校の水費料、それから東小学校が今度宛切簡易水道を引いたために、その水道料が出ることになった。

それからシンクロアッス等を入れたために電気料、そういうものを合わせて、二十万円不足があるうで、

お願いの次でございす。

印刷製本費四万五千円・消耗品費五万一千円・役務費
通信運搬費四万・合わせて十万円は北条小学校関
係の研究会が費用といたままて、その下にあります
備品購入費十万円を更正してこれに充てた次で
ございす。

次は三目、学校建設費でございすが、十三節の委
託料、これは神戸小学校の設計委託を十六万六千
円更正いたしまして中学校費、学校建設の方に持
つていた次でございす。

三項、中学校費でございすが、学校振興費、土
節の需用費、修繕料七万円を更正いたしまして工
事請負費、西岬中学校、自転車小屋、工事関
係に持ってきたりでございす。それから四中体育館

の工事費も現在設計をいたしまして結果二十三万四千円不足するということで一人合をしまして三十万四千円追加をお願いする次第でございます。

四日高等学校費賃金十四万九千円追加は川口という先生が結婚のために退職いたしましたのでその補充をいたしまして時間講師で間に合わせるということと時間講師の雇い上げ料として十四万九千円の追加をお願いした次第でございます。

全日制の高等学校の管理費十八節備品購入費、芝青費といしまして三十万の追加をお願いいたしまして、次に幼稚園費十一節需用費修繕料五万円、これは北条幼稚園関係の修繕料を更正いたしましてその下の備品購入費、共済費の方に移しまして、遊具の購入費に充ててございます。

社会教育費、婦人会館費、七節、賃金でございます。一万円の追加は桑島という看守人が入院したために、そのあと臨時を約一カ月ばかり頼んだのでございますが、その臨時用人料、雇いあげ料として一万円をお願いいたしております。

次は十一節、需用費一万五千円は電気料、不足分をお願いいたしております。

七節、保健体育費のうち、工事請負費七万円、これは市営プールのまわりに柵をやつたのでございますが、その不足分七万円をお願いいたしております。

企画課長(右夏茂生君)ニ款、総務費六目、企画費につきまして、説明申し上げます。

総合調査を実施したわけでございますが、それらを参考といたしまして、現在市の長期計画に取り組んでおります。

すが、総合調査の報告会が三月末の予定が六月と遅
くなりまゐたことと、果が長期計画に乗り出しましては
またま、こゝとぶつかりまゐた関係と準備期間等の
関係で実質十月に入つてしまつた。こゝ長期計画の策
定は過程におきまして建設審議会や審議等も
一応本年年度六回予定してありまゐるが期間のずれか
ら、三回程度しか開催できないだろうということで、企
画費のうち第一項の報酬でございしますが、こゝを半額
更正をしようというものでございします。

次う八節の報償費でございしますが、こゝは次う三節
の委託費との関連性がございしますが、こゝ計画を立て
ますにつきまして専門家に委嘱して検討していただく
という方針でございしますが、長期計画を作り出す過
程におきまして各部門的にいろいろ指導をあらわ

ぐという必要性が出て参りましたので、委託費が十五万円を更正いたしまして八節の報償費の方へ講師謝礼という事でお願いしようというものでございます。

それから十一節の需用費で三万五千円、これは本年五月から市民相談室を開設いたしました関係で当初予定いたしておりませんでしたので、市民サービスということから、十一節の備品購入費、ストロボ購入と合わせて燃料費等も一応お願いしようというものでございます。財政課長（長谷川広治君）以上歳出の申説明を終ります。総計七億四千二百二十万七千円ということになります。続きまして歳入におきまして申説明申し上げます。

歳入につきましては、ただ今歳入で申説明を申し上げました。その事業に対する国庫の補助等は、はつきりいたしております。及び今までの国庫等の補助

金、確定預知をいたしてあります。合わせまして
二千三百七十九万六千円ばかりでございますので、それを
そのぞい款項ごとに計上いたしまして、不足額の千七
百万余を地方交付税、税輪収入、この二つにあおい
だわけでございます。

交付税におきまして七百五十六万八千円を今回預
加計上いたしまして、ここに記載のように総額一億
七千十一万八千円が算定をさしまして、決定を受けて
おりますので、今回七百五十六万八千円を計上いたし
まして、今までの予算と合わせて同額ということにい
たしなわけでございます。

従って交付税としては、全額予算に計上すべしとい
うことに相なります。

分担金、国庫支出金、県支出金、そのぞい歳出に

おいて申説明を申し上げました歳出に關係をいたしてありますものでございます。

財産収入として二百四十万円を計上いたしまして、歳出において申説明申し上げました館野地区の農業構造改善事業の道路の買い上げ代金が二百四十万円ということでございますので、これを計上いたしまして。

諸収入として競輪關係を考えたわけでございますが、現在千八百万ばかり参つておりますので、あと二月に二回競輪が開催せられますので、二億五千七十万円見当は収入確定ではないかというような予想で八百七十六万円を今回計上いたしたわけでございます。以上歳入合わせまして歳出と同様に億四千二百二十万七千円ということになります。

以上で一般会計の説明を終わります。

議案第五十八号関係は休養施設の補正予算でございますが、人件費関係でございます。総額歳入歳出とも三十一万一千円増加でございます。内容は人件費でございますので省略いたします。

・ニニ番(君塚喜三君)と款商工費のつづきの苗木の購入費。この点で先ほどや説明では地えで二十万、市でもって二十万出すわけでございまして四十万、つづきを買いうるだというや説明を受けただけなんです。が、このまゝに地えから寄付として受け入れられて四十万となるが、普通のようには思ふうだが、歳入のところに寄付というところがないのであります。これは一体どういうわけであるか。

買ったつづきは城山に植えるわけなんだが、これは地え

のもうになるのだということになるのでございませう。その
点お伺いしたいと思います。

なお神戸小学校の改築設計委託料が十六万六千円
というのは神戸小学校の鉄筋化に伴う設計委託
料か、当初予算では確か百五十万だったと思うので
ありますが、それが二倍だけ差引きますと、百三十三万
四千円でこの設計料が上ったというふうに解釈して
よろしいですか。その点お伺いいたします。

・商工観光課長（小沢正治君） 第一点につきまして中議
明申し上げます。

地えう二十万、それにつきまゝではもともと公発が各世帯
の一木一草、寄付運動というものが、一木一草を各人が
ばらばらないろいろな木や草を持っていて植えたので
は、工合が悪いのではないかと、ということ、それならば、五

十月でも百円でもおし合つて各町内会単位に管理
を競争しようではないかということでお断りなわけでご
ざいます。

従いまして、そう集めらるゝまゝ金かまとまつたらうが、今年
もう少し早ければ、そう都度買えたんですが、移植期
をはずしたんで、一応、半年ギリ延期にしてもらつて
移植期に入つて、どういふ種類を買つか、きめていただ
いて、それで買つて、いただいて植えるのは、私どもの方で配
一ましようという形であつたわけです。

それで、ようやく移植期に入りまして、やはりつつどいい
という連絡がございまして、その二十万は地元で直接
購入して、私どもが植える手配といたつたという形になるわけ
でございます。その際に、私どもとしては、地元がそれだけ
やる、だつたらう市の方でも一踏にやつた方が、いいのでは、

ないかということで一応同額を市の方でも二十万新たに購入するという形でございます。

・庶務課長(千場伊右衛門君)神戸小学校の委託料の関係でございしますが、当初予算百五十万委託料を計上したうでございしますが、それが実際は八十三万五千円、これが神戸小学校の委託料でございまして、その他に地質調査の委託料が九万九千円、これから出てありまして、その他に九節の四中の委託料の方に三十六万五千円とそれから、約九万、これだけを中学校費の方に更正いたしまして、あと残った金がまだここにあるので、それを十六万六千円を更正して中学校費の方に持つていくということでございます。

・三番(君塚喜三君)そうするとついでに並木について質問いたしますが、現物寄付ということがあるかということですか。

・商工観光課長(小沢正治君)そういうことでございます。

二十万、地えり集めらいた金は地えで買って植えるといふことでございます。そゝ金を市に寄付して市で一括して買うといふことでなくて地えで集めらいた金は自分たちでつづきを買って植えるといふ形になっております。

ニニ番(君塚喜三君)植える先が城山公園である。勝手に植えたという解釈を取らうてございしますが。

。商工観光課長(小沢正治君)もともとこゝ運動は城山愛護、城山イ花園化について地えの方たちが積極的に関心を持っていてくんだといふことからあつたわけてございましてそれで各世帯で一木一草扱出ー合つてそうして町内会の方で自分たちが植え付けたものを管理を競争して合つて行くといふのではないかとこの話ー合いがなまゝておつたわけてございしますが、そういう形でいくと木も草もばらばらになつてエ合が悪いのではないか。それで町内会

ごとき金を募集いたしましてそれでまとまった苗を買った方がいゝのではないかと。いうことで集められたわけですが、要するに金を市に寄付するうでなくて金で直接購入して植えることだけを市の方でやってくれるという形でございます。従いまして形としては現物で寄付するという形でございます。

・三四番(山本昇君)ちよつと二三お伺いたいんですが、第一点、二三番議員が聞きまして神戸小学校の設計委託料の問題、中説明がよくわかりました。が、神戸小学校の鉄筋化の工事が現在どの程度進んでおるか、という状況が、それを教えていただきたいことが一点。

それから衛生費の中に人件費ですけれども三十万です。か減額してあるけれどもこれはどういう意味でやったりか。二点教えていただきたいと思います。

・建築課長（高野亮三君）神戸小學校の進行状況につき
 コーでお答え申し上げます。

目下基礎の仕込みを全部終りまして基礎の鉄筋
 の組み立て中でございまして近いうちにコンクリート
 を方を施行する段階になっております。

・秘書課長（小倉登男君）第二点についてお答えいたします。
 これは衛生費だけということではございまして各課に
 つきましていわれるのでございますが当初予算を編成
 いたしましてたときには、まだ事務改善の關係の人事費
 動をやっていない点で予算編成をしておりますので、徐
 中でどう程度か額になるかということが一ヶ月アップもあつた
 し、そういう点でもありませんでございまして大体十二月になり
 まして大体予想がついたところでこういう給与の追加更正
 をいたしておりますので、その關係の減額でございまして

十二月に傑作をいたしたという結果でございます。

・三四番(山本昇君)衛生費の方で三十万というは人事異動とか何とかあったんですわ。具体的に。

・秘書課長(小倉澄男君)これは衛生課の補助佐が特別会計から出ておった。その分が予算に計上してあったので余った。

・三四番(山本昇君)これを聞きまいたのは、これに関連いたしまして少く当局のお考えを聞きたい点がありますので、実はこういうことを聞いたんですが、そう一つは神戸小学校が地元の要望切なるものがありまして鉄筋による学校を建設すると、こういうことに決定さし我々もこれに対して賛成をいたしたものでございますが、その神戸小学校の鉄筋化ということにつきまして、ただ単に簡便な意味で、やったのではないということが私どもよくわかっております。

あります。すなわちそれはなぜかというところ。あそこには尿処理場を作った場合にいろいろ地元の村々、荒地先を中心といった一帯で各部落が非常に反対し、今まででも完全に了解が取っていないという事実がございます。

「カーナガタ」のようなことを住民の感情を緩和し、そうして協力してもらうことで完全な運営ができる、またたくてはいわぬ。かような観点に立ちまいてあの問題につきまいて私ももそう一た意味が含まれておるといふうに聞きます。あう問題につきまいて私も実は賛成でありあります。一かるに今日、処理場の状況を見ますと、完全に運営されてはいない。

処理場を作るにつましましてはあう対策委員長といったまいて本当に体を張って実行する。

相当反対派の被害を受けたにもかわらうず、断固として六万市民のためにと、この観念に立つてやったであります。それが今日において完全に満足できていないということになります。極めて私ども残念に思う次第であります。一かもそう渾身張っていて、一番大きな原因は何かというところ、水の問題がある。その水が再三再四井戸を掘った。これも失敗しておるということも私ども承知しております。

さらに井戸を掘るということも云われておりますが、あえてだめな井戸を二つも三つも掘らなくても、あそこへ流れておるリヤ水を使えば、十分に間に合うんでは、ないかというふうな観念に立ちまゐって、私は市長さんに対して、この問題を早く解決してほしい、ということをお願いしてあります。

「かるにただ一片の儀礼的なあいさつのみで、その後
に何う手を打っていないというふうな実情だ」というこ
とを私も聞いております。

果たしてこゝでいゝかどうか。一かもその神戸小学校
のあり鉄筋によるところの校舎建築というものをそれ
と関連して率直な言葉でいいますと政治的な解
決というふうな面におきまゝてゐたにもかかわらず一
方は建築の方は課長さんや説明にすぎますと
すでに基礎工事はできてゐる。こゝからさらに
進捗の傾向になってゐるということも聞きます。け
いども、その反面において一処理場の問題が一
向に解決されていない。一かも部落のやうな反
対のために大万市民のためにやったこの仕事が一
全然推進されてないということになります。だから批判を

受けましようか。

こうしたことをなぜ今日まで等閑に付して置くのか、
この点私は非常に疑問に思っておる次第でございます。
これに対しまする市長さんのお考え、明解なる態度
を表明していただきたい。

私どももあれを設立するためにはいろいろな困難と戦
いながらやりました。カーナガワ市長さんは自かく
やったことではないのだという安易なお考えであつたこと
するならば、私どもは承知できません。

あくまでも市政の責任者であります。責任者であり
ます市長さんでありますので、この問題を早期解決
してほしいというが、いわゆる私ひとりのお望みでなく
市民等しく私は要望しているところだ。かように考える
次第であります。

一かもそう揮毫において先般私処理場に参りまして
 その後う状況を見ますと、水が足りないためにある程度
 に対して臭気ふんぷんとしておる。何とか解決の方法
 はないのかといったら水が足りないからこういう結果だとい
 うことを私も聞かされたのであります。

なお、汲み取り業者の状況を聞きますと一説によると
 台数を制限されておるといふようなことも言われて
 おる。で事実そうなのかと直接管理者に聞きますと、
 と一応うそういう線はあきれておりまするけれども、
 持っていくばほとんど入っておりますというような回答
 を得たのでございます。直接業者に関き
 まするとあるまでも搬入の台数は制限されておる。
 やむを得なく業者自身がかばかに捨てておる。これは環
 境衛生の面からいきましても、まことにおもしろくない

次才であります。

―かも市の塵芥の捨てておる場所に教回捨てておる現実も私見ております。

ニ―たことを考えたときに早くあう問題を解決―！
水の問題も解決―！フル渾転をするならば、従って
業者の問題も解決―！、環境衛生の面から見ま
しても、そう―たことが解決さいるのではないか。かように
考えておるうでございます。

こゝに對しまする市長さん、どうようなお考えを持て
どうような対策を立て、どうような手をお考えであ
るか。この点ををはつきりとお知らせ願いたい。

―かもこゝは神戸小学校の鉄筋コンクリートによる
ところの校舎の建築と相關連いた―ま―て私と
もは重大な関心も持っていることを十分明記

していただきたいと思つております。

そうした観点から先ほどあえて私は衛生費、人件費の問題と合わせて神戸小学校、設計委託料の問題に関連いたしましてこの問題を取り上げてもらう責任ある処置と責任あるや回答をお願いしたい。かような考へる方針であります。

市長(本間 譲君) 神戸小学校の鉄筋化についてはですね、一尿処理場やなんかせ話になつたからやめたというふうなことは私承知しております。一尿処理場の水につきましても、

は、あつたリの水を使うが一番手折でいいわけでございます。ましていろいろ交渉したわけですが、これは最初作るときに絶対にリの水は使わないという条件であつたということも強く向こうでは主張しております。

この間、いきまゝしてとにかく試験だけはやってほしい。

こういうことで試験はいたいたわけですが、試験をするときにもとにかく絶対使わないという一札を入れて試験をしてくれということでは仕方なく試験はいたんですが、あやりの水を半分位使えば間に合うと思うわけですが、いいますが、どうしても今の段階では承知しないんです。その点をおまじ了解すべく考えておきますけれども、そのより台土を採掘したあとにたくさん水がある。それを上げれば一番手近ではないかと思つて、その点を検討しておりまして、私がやつたのではないかう、といった考えは持っておりません。

当然私は責任者ですから、それに付いては十分考えておるわけですが、いいます。

三四番（山本昇君）市長さん、答弁の中で、私がやつたのではないうだから、いって決して等閑に付いていない。責任を

持つてゐるということについては、敬意を表するとともに是非、そういう考えでゐていただきたいと思ひます。

第一点については、神戸小学校の鉄筋については、そう一々含みがあつたことは知らぬ。かような言葉でございませうが、当時私が議長をやつておりました神戸優出議員の方が紹介議員として、実は参りまして、そうして、市会で採択してゐるわけでございます。そのときに紹介議員が、そうしたこととはつきり、こう一々含みから旧神戸地区の住民の感情ををわらうげてもらいたい。そうして、その方向にだんだん持つていくからということをはつきり言わしてありますので、私は、そう一々含みを十分考えてやつたうでございまして、この点、市長さん知らぬとおつて、いますけれども、これは市長さんもういつぱんその人に聞いていただければ、はつきりする。事実かどうか。

あえて私が言ったのは、取り引きというところ、語弊があるかも知れませんが、そういうことを考えた方によつて、またということとは、やはり記していただくというところはもういっぺんお考え願いたい。

さらにまた絶対使つてはいけないということも言われておることは私も承知しております。ただ言われたからそれでいてはいかぬと思う。

少なくとも先ほど申し上げたような取り引きといひましようか。含みといひましようか。そういうものがある以上、これを大いに活用して、そうして一方では向こうの条件をのんでゐておる。その方が全然解決しないのは、おもしろくないのでありまして、この点をよくお考え願ひまして、一ぺん断められたいから、それでだめだということではなく、それを政治的に或いは行政的に解決する方が、市長さん政

治的手腕が大いに發揮してもらつてゐるところではないか。かように考えますので、市長さんがもっともつと足と
渾び誠に誠意を尽くすにならうば、地元の人は納得す
るという状況まで聞いてあります。市長さん、積極

的なお話がないということも聞いておりますので、これは
もっともつと市長さんが大いに誠意を披瀝し、政治轉
力を發揮するならば、さうな問題が解決できるであ
はないか。かように考えますので、もういっぺんこの点、市長
さん、再考を願いますとともに、折書いをもういっぺん聞
かしていただきたいと思います。

市長(本間譲君)川の氷を使うことにつきまゝではただ今申
上げまゝに始めやらいけないということであつたそ
うですが、私はどうしても使わしてもらいたいためにとにか
く試験をさしてもらいたいというふうなわけで、その試験

に つい て も い け な い と い う こ と を い っ て い け な い と い っ て も し
やう が な い う で よ く 話 し て 試 験 だ け は や っ て み よ う 試
験 の 結 果 に よ っ て は 話 し 合 う が そ の ち ら し い で は な い か
と い う こ と で 実 は 試 験 を し た わ け で ご さ い ま す 。

試 験 を し た と き も 使 わ な い と い う 条 件 で や っ て く れ あ る
そ う で す か と い う こ と で や っ た ん で す が 大 体 今 の 水 の 半
分 を 使 え ば 一 番 便 利 で い い と い う こ と に な る わ け で ご さ い ま
し て こ う 点 に つ き ま し て も 決 ま っ て だ め に し た わ け で は
な い ん で す 。

こ の ち ら し も 了 解 運 動 を す る 考 え で お り
ま す 。

。 三 四 番 (山 本 昇 君) 一 応 私 ど も 信 頼 す る 市 長 さ ん の お 言
葉 で ご さ い ま す か ら お 言 葉 を や り 信 頼 申 し 上 げ ま
し て 今 後 う あ り に 私 ど も 注 目 さ っ て い た だ さ たい と 思 っ
ま す 。

し か ら な が ら す べ て 私 ど も そ う 考 え る っ て ご

ございますけれども、何といつても、市長さんが市政の最高責任者であるとともに、市民もまた市長さんを信頼している。ゆえに何かあった場合に市長さんが率先的に当たって問題を解決するというような腹構えで進んでいただきたいということをお願い申し上げます。とともに、この問題につきましても、早くに手を打っていただきまゝて早く環境衛生の立場から、業者の人たちも立場から、いきまゝても、完全にフル運転ができれば、一日も早く手を打っていただきたい。この点、強く要望して、私、質疑を終りたいと思います。

○一番（石井正君）ただいま、関係質問としてもういっぺんお伺いしたいんですが、神戸の小学校、鉄筋化が、尿処理場の関係で、いわゆる市民感情がどうこうで

やったというやうなことを今山本議員から話があったんですが、市長さんはそうではないというけれども、市長さんそういうことは知っておるといふことで、そう方々答弁がなかつたんですが、もうそういうことをすると大問題であるけれども、もういっぺんその点を市長さんにお伺いしたい。市長さんがわからなければ助役さんで結構ですが、

市長（本間譲君）ただいま申し上げましたように私は一応処理場やさんかで迷惑をかけてあったから鉄筋を失に神戸にやるのだといふことは存しておりませんけれども私はこの間も砂防組合それから神戸小学校の起工式にいったときにいろいろ神戸地区では協力を願つてもおります。そういう関係もある。鉄筋が市内初めてのものが出て非常に結構とありませんか。こういう話はいたらないわけでございます。

○一番(石井正彦)何だが答弁が明確でなくて昔からの議
員さんはおわかりのようですけれども私にはよくわからな
いんですがもうサア助役さんはつきりと詳しくお話を
できませんか。

○議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後 四時 四十四分 休憩

午後 五時 再開

○議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
石井議員に対する答弁を求めます。

○助役(小出武男君)石井議員の質問でございしますが
神戸小学校の鉄筋を作るという問題と、尿処理
場の水ですが、これを交換条件にやったということはないと

思います。

私ども教育委員会が原案を承認して予算を付けたというゆえんがもう付やけり正式の手続きによりまして、破損度を申しますか、危険度合が深いものから取り上げてきたということも了解しまして予算を付けたということでございます。

二番（石井正君）市が行政というものが私に聞かれましたが、たまたまそういうことが、おまゝにたけいども、もうそういうことがあったとすれば、長期計画なんか必要ないわけですか。

政治的なもので裏がえしにすることならば、そういう政治的なことが正直に考えらるゝないものかということに私は疑問を持つわけで、その点をはっきりとしないとおっしゃれば、それに越したことはないんですけども、今後、問題

がありますので、不安がありますので、中質問したわけ
です。了解いたしました。

次に林業費の中の松食い虫の防除の経費九十三万六
千円の補助があるから同額を出すということなんです
が、この問題内容がわかりませんが、数字の点ともう一つ
松食い虫というやつは、非常に根強いもので、数回
位では防除できないということを開いておりますけれども
ここに果が補助を出したからといって市費九十万を出した
九十万という簡単なようですが、ほかで九十万もうろ
うにはおおさわぎだ。

そこで、その点について担当課長がいわゆる有能な防除法
ですか。そういうものについてお伺いしたい。

それから、商工観光の中でつつと問題ですが、つつとと
いうよりも、城山管理という問題についてお伺いしたい。

んですが、今までの城山に比べますと、掃除が確かに行き届いております。人夫の方、管理人と申しますか、ひそひそありますが、二人たち身分、問題と給子の問題とお伺いいたいんですが、それから勤務範囲といひますか、どう位まで管理をするようにされているか。その点をお伺いいたい。

次に土木課関係で城山、展望台設計委託料が十万ですが、出ておるんですが、設計をもう委託されたのかどうか。どこで設計をするのか。それから城山の展望台をいつ頃建てる見込みなのか。

次に教育費の中で、館野小の給食婦、雇用についてですが、これは便取をして臨時に使われているように聞いておりますが、これは給食婦として使っておるか。それとも臨時のいわゆる使丁として使っておるか。身分

の問題もお伺いしたいと思ひます。

次に教育振興費の中、先ほど申しましただけの熱費ですけれども、東と豊房、並びに中学校の方、も豊房中の水道が九万円ですけれども二十万円の東と豊房シシクはガス云々といひますけれども、もうソー、経費の明細はつきりと開かしていただきたいと思います。以上、農林水産課長(伊藤幸太郎君)松食いさう点につきまして申し上げたいと思ひます。

今お話しのように現在、状況では、薬品によります、駆除だけでは不徹底だそうでございます。でございますので、今回、計画といひましては、各農協、地域ごとに伐採班を作りまして、被害木は徹底的に伐採していく。ただ単に薬品を散布するということではなくて、被害木につきましては、統一した計画のもとに、まず木を切りまして

皮をむいてそれに消毒をして完全処理をしていくという
計画でございます。

「それにつまりて先ほど申し上げましたようにいろいろ計算
をいたしますると館山の場合には一応果の認定と一ま
ては千三百リューベが被害木が設定されておるわけであ
ります。

これ以上にふえますが、或いはこれ以下に被害木が止まり
ますか。目下調査の段階でございますけれども、一応
果の認定としては千三百リューベが被害木が想定さ
れます。それに対しますいろいろな計算をして参りま
す。場合に九十三万六千円ですが、補助金の一応の内定
を見てゐるわけでございます。

で果の方針と一まて補助金に同額に近い金額
を市の方と一まても、考えてそうして松食い虫の早期駆

除に当たつては強い方針がございまして、いろいろ財政事情もございまして、現況の松食い虫の被害を早期に駆除して参ります上に相当願ひ市費をここにお願いして合せて今申上げたとおりの駆除態勢をやつて参りたいというふうな考え方でございます。

土木課長(新井重助君) 城山の管理の問題でございしますが、今年より城山に常用の人夫と申しますか、こゝを入りまして作業等やうております。

なお、この仕事でございしますが、今まではときどき大勢の人夫が参りまして年に三回位雑草の刈りはういをやっておりますが、こゝでは維持管理がいき届かなかつたということで常用の人夫を入れたわけでございます。

給料は一万五千元、作業の範囲でございしますが、城山の区域全般にわたりますことは、はなはだ過剰でござい

ますので、一応人夫をいまして刈りまゐるところのあとの
維持、雑草の刈りはらい、つつとを植えたあとの手入れ
というように、完全によつたあとに余力がありますれば、
ゆゑぶがありますので、手を回わりたい。こういうふうにか
えてありますが、今うところせいっぱいでございます。

なお、展望台でございますが、設計を頼んだかというこ
とでございますが、これは、地えて一応、最近、寄付金が市に
入りまして、果て補助金と合せて、立派なものに作
ろうという話がありまして、その交渉の段階で、地元の
寄付金は、展望台に投入はできないというふうな話で、
その時期が九月になりまして、九月以後、果て参ります
て、設計の方を依頼したのでございますが、いさめにい
たしまして、これは、果て事業でございますが、果て
方といたしまして、私の方でやりたいのは、やりたいが、今

りところ、設計技術屋がいらないから、是非、館山市で設計してもらいたいというふうな申請がございまして、で、やむを得ず、予算がございせんが、東京の石本建築設計事務所に参加しまして、寄付的にやってみよういたい。かように話したのでございます。昨年におきましても、北条海岸の休憩所や工事、渠工事などでございまして、石本事務所に行きまして、あるいは無料でやっていただきまして、今年も無料ということでございますが、できれば若干の手数料位は、私どもは支払ってやりたい。かように考えて一二十万円の予算をお願いした次第でございします。

設計の方はでき上りまして、東京の価格と地元の価格とに
相違がございますので、これを検討中でございまして、これ
ができれば県に出しまして、県の施策段階でございします。

それが一月う末頃になるうではないか。かように考えてお
ますうで、竣工は三月いっぱい位にでき上るといううな
予定で今進めております。

庶務課長（干場伊右エ門君）教育費う小学校費うとこ
ろう賃金、給食婦、雇い上げ料。こゝ中に館野小
学校の用務員の臨時給与が含まれておりますが、
こゝは給食婦でなくて館野小学校関係の用務員
の臨時ということでございます。こゝ賃金の中から
給食婦の雇い上げ料と所方二つ出るわけでござい
ましてここに「等」と入れればよかったです。

それから光熱水費う水道料と電気料の明細ですが、
大体水道料が五万、電気が十五万位と思ひますが、
はつきりなものを持ち合せておりますんで、あとで調
べて報告したいと思ひます。

○二番(石井正君)城山関係で聞きたい。まず、管理の
問題ですが、城山、後援会というんですか。

観光協会というんですか。電気を夏つけると球が今い
人と一つ位、かついていい状況である。なぜ聞いたかと
いうと、管理というのは、賃金も安い。ひとりでも無理な
ことはわかるけれども、市がどの位、城山、公園を管理
する考えがあるかというのを伺いたいわけなんだが、子
供たちが、学校を休んで防空壕、中で遊んでおる。

中学生くらいというんですが、中にはわけごとまで
やっておるようで、刑事もときどきくる。夜間はアベックも
非常にひどいことも聞いておりますが、草をとっておて
そこまで手が回らないのは当然ですが、そういう管理も
考えるべきである。それからもう一つは、建物に対する
管理。今、建物らしいものはない。電灯だけかないん

ですが、椅子なんかも鉄筋でこーうえた椅子がわらへ
てゐるというような状態ですが、そういうような管理を市
としてはある程度考へてゐるやうか、どうか、この点をお伺
ひたいわけです。

それらもう一つ、設計ができたということは聞いたん
ですが、地元が資金を集めておた。これは、館山城復
えうための資金であるやうで、展望台に寄付できない
ということをもつたということを知ります。

そこで市としても果て金を入れたけれども、多分出さなけ
ればできない。

ある程度のものを作るには、地元が何百万かゝるお金を
たぎたいやうだけれども、もうできなければ、いわゆる立ち
上がりでも、三月末までにとつてしまふというやうだけれども
どうしてやつてしまふやうか、それとももうサー、方法を

考えてある程度のもうを作ろうとするのか。どうせ作るなら一月二月急がなくてある程度のもうを作るべきではないかということを考えるんですが、その二点について。

・土木課長（新井重助君）城山が子供遊び場ということですが、そういうこともあるんじゃないかと考えておりますが、最近あそこは常駐に監督する人を置きまして、ところがそういうような話をまだ承わっておりませんので、昼間、間はさーつかえないうではないかというふうに考えております。

なお、建造物でございしますが、最近ほとんどこわいっておりません。

過去においてこわいなりが残がいとなつて残つてゐる。これを補修していきたいと考えております。

電灯の問題でございしますが、これは夏人会館観光協会でも、夏場になると、五、六灯点滅してゐるような状況でございしますが、いつかいたしましても、石を投げ、て、電気の球を割るということは今までいっています。そういうことにつきましても、管理者が、相当注意をしておるような状況でございしますので、広い山でございしますので、せいばかりやっても、おろしませんで、ときどきそういう事態が発生してゐるようでございします。

なお、展望台のこと、私どもとしますと、城は時期が過ぎてゐるから、展望台に切りかえていくというふうなことでございまして、果々方でも、そういうふうな予想に際しまして、展望台の費用をここに、おろすのでございします。

それで、地えで集めた金を、展望台に使うということ、で、資料館とか、そういうものを、やる時に使いたい。

こういう意向があるようでございまして、今回も果ては三
百九十万円で母体を作りまして、それで足りない分を補
つて、こうという考えで追加をお願いいたすわけでござい
ます。

・二二番(君塚喜三君)再度、ついでに苗木の問題について
くといふですが、納得がいかないうで、やはり説明いただきた
いと思ひますが、先ほど、やはり答弁では、現物寄付であ
るから、収入には上げないやうである。そうしますと、館の
高枝あたり、P・T・Aが建物を建てて、市に寄付
した。こういう場合には、計上されておるうだが、そこ
取り扱ひ、どうも私納得いかなひ。

苗木を植えるといったところで、それは、城山公園に植
えることであり、実際には、苗木としてあるとしても、あ
る二十万円と合わせて、同じところから買つてきて、同じとこ

ろに値えるわけだ。なぜ館高あたりの建築物に於ては寄付として収入に計上——こういうたもりにては上げないのか。

そうすると城山うつつどう二千万円分というものは、一体どういう形のものなのか。市に入らぬのかという感じがするんですが、再度市説明いただきたいと思います。

・商工観光課長（小沢正治君）はつきり申し上げますと、城山というものは市も持物でございまして、国定公園の区域内の国有地でございします。従いまして、あそこへ施設をする場合というのは公園事業という形で国と県と市と三分の一づつずつ負担で事業が計画されるわけでございしますが、それを待つておいたうでは開発が遅れるということとで積極的に市費を投下していくということで、その中へ地えもさうに、いっそう熱意を持ってやるんだということとでございします。

すうで地元の二十万というのは、直接地元で購入して植えていくという形になるわけでございます。

○一番(什田実君)観光の方になるけれども、七款の十七節観光案内所の購入費、四十万計上されておりますが、あそこ、建物ということになっておりますが、建物だけなんです。か、土地がどうなっておりますか。

今まで観光案内所の運営費について、かなり市の予算という方が、おさめておるわけでございます。そういう面では、今後運営について、純然たる市の経費負担という面でございます。その点についてもう少し説明をお願いしたいと思います。

それから教育費の中でございますけれども、言語障害者の修学ことで、当初予算では千葉に派遣するだけで六万だ。あと二十一万円という非常に高額なもの

のが補正されておるわけでございますけれども、この点につき
ましては、千葉、東京という区間から見てもあまり極端
でございましてどうも納得がいかない。その点について
くわしい説明をお願いしたいと思うわけでございます。
それから人件費のことになるわけでございますけれども、
これが若干先ほどの条改正によつて増額になっておる
わけでございますけれども、夏の手当をめぐりまして、
いわゆる特例の扱いをめぐつて論議されたわけでございます
るけれども、そのときに特例ということであるけれども、実
際問題としては、物価の上昇とかさらに一般的に常態
の面から、それが一つ基準になっておるのだからという
形でもって提案されておたわけでございますが、今回はそ
ういうことの提案ということがないようでございます。
その面におきまして、この前より率と今回の率になると

はなはだしへだたりが表面的にはあるわけでござい
まするけれども、そう点について、そう間々事情というん
ですわ、というわけで、そうなったか、簡単に中説明
願いたいと思つうわけでございます。

・助役（小出武男君）第一点、觀光協会、建物、問題で
すが、あの建物については、市からは全然助成してござい
せん。ただ、運営費におきまして、ごく最近にわたつてから
わづかづつ助成してあります。

建物には投入してないということでございます。

それから、期末手当の問題だと思つては、こゝにつきます。では
国家公務員がきめてあります規定に準拠して、地方自
治体もやゝという行政指導がございまして、一応二十四
という数字がふたわけでございますが、実態から申しま
すと、今まで相当、それを上回つた期末手当が、京都

支給しておりません。

こういう経緯がございますのでできるならばさらに二回に若干加えたいという意思は持っているわけでございますが、たまたま給与改定や財源が国や予算や裏づけにおいて、今までと相当かわった形態を取らなくてはなりません。

いかえるならば、財源が確立していない。現実の問題として特交が財源になると思いますが、その算定を渠が今実施中でございますので、これははっきりしない間にそういう仮架空な財源をもとにした約束はない方がいだろうという前提のもとにやりあえず、今回は糸創通り支給してまいりては後日やり相談をしたいと思います。こういうことと考えておる。

。庶務課長(千場伊右エ門君)言語障害関係の委託料の問題でございますが、当初六万円というものは千葉う

院内小学校にこちらから通つてゐるということだったんです。が、院内小学校では、やはりなりまして東京の方で宿泊をしまして、そうして研究をしなければいけないというふうにかわつて参りましたので、その差額二十一万円を計上した次第でございます。

○一番(辻田実君)簡単に伺いますけれども、案内所の件につきましては、要するに建物だけを買うという形に変わるのか。私は運営につきまして、どうこうということではございせんが、今後、観光協会が再建、そういうものを含んで今度の額、そういうものが明示されておるかどうか、この点だけお伺いたいわけでございます。

○市長(本間譲君)観光協会は、会費が非常に今まで取れないで、運営に困難をしておったわけでございます。観光協会としては、この際改組して再出発をしよう

というふうなことでございますから、私もそれは結構だ
ろうということでは、その助成金というものは、含んでお
らないわけであります。四十万円は建物だけが買収

・一〇番(井田実君)それから期末手当の問題になります
けれども、この点については、うちほど、財源が仮空の債
券でなくて、そのもうが、調達できたときに、何らかの形で
ということではございまして、そういうものができなかった
場合に、現状ということでは、処理されるか、そういう面
については、必ず、当局の方で責任を持って、これから、
努力するしかないか、それに対する見通しはあ
るのかないのか、簡単にお聞かせ願いたいと思ひます。
・助役(小島武男君)先ほど申しますように、まだ今年の後
半に行かぬベースアップの財源が、相当、市費の
負担が予想されますが、ただいま、それらの財源確保

うために今後、執行予算につきまゝで相当の節約を各課にお願いをしております。

それから今後十分歳入の面におきまして努力をばらゝまして財源確保の一助にしたい。この両面から現在をしておりますので、私の推定では、去年程度のものは何とかしたいということに最善の努力を尽くしたいという見通しを持っております。

・三三番(高橋文治君)九款の消防費につきまゝで、二にお尋ねたいと思います。

第一点が前回の定例会の際にお願いした問題でございますが、市役所の九重出張所の敷地内にあるところの貯水池と小学校内にある貯水池の二つとも水がありませんので、せっかく貯水池があるのだから修理をお願いしてくたさうことをお願いいたしましたところが、

早急に修理するとうち答弁でありましたが出張所
方は立派に修理できましたが校庭にありますところ
野水池は今まで水がないままになってあります。

これは大災期に入りまして本当に必要だと思います。
こえてくゆるのかくはないのか。いつ時分、こえてくゆる
のか。この点を尋ねたいと思います。

第二点はこれも前回の定例会の際にも尋ねた願いいた
うたでございしますが、自警団に対する補助金が当
初予算におきまして削減されておりますので、この自警
団は、市街地と違って農村の方、自警団は年末寒
いときに大災期に入りますと徹夜でもって大災予防に
努力しておるでありますので、せめて従来通り手
当は支給してもらいたいということをお願いいたしまし
たところ、どうとうち答弁は、何とか考慮するとい

や答弁と私は承知しておりますが、本日の提案さいますところの補正予算には計上してありません。この手当は出さぬか、出さぬというか、どちらかでありますか。ここで提案さぬのを忘れたるか、その点お尋ねいたいたいと存じます。

消防署長(岩田実君) 第一点についてお答えいたします。九重小学校の前、貯水槽と九重農協の前、貯水槽でございますが、先般、市会において市指摘を受けまして早速技術者が参りまして調査したうでございしますが、九重小学校の前、貯水槽は技術的に見ましてもほとんど修理不能であること、またあまりに小学校の校舎に接近しておきまして、実際に火災になってもそう有効に使えないのではないかということで出張所の方は修理をいたしまして現在使用可能になっておりますが、

九重小学校より近くすぐ前より貯水槽は、以上より理由から修理を見合わせること。こういうふうになつてゐる次第でございます。

助役（小出武男君）自説言田より手当てでございますが、これは
こゝ前より議会でより質問があつたときに大体より考え方を
としては正規カルートからはずして除々に解消して
いくという方向を申し上げましたんです。いろいろ聞
いてみますと、これに対する必要性というものを強調
されてゐるようでございます。今後何年間かの
もとには縮小して廃止の方向を一つ打ち出してあり
ますので、その方向に進みたいと思ひますが、本年度
にのみきまゝでは金額ということもいかばかりと思ひます
ので、三月より最後より市会あたりで金額を決定しま
して計上しない。かまうに考えております。

な。この件につきましてはよく消防委員会あたりで意見
をもう一度検討しまして、方針をさらにきめていきたいと
思いますが現状では自警団というものが消防と隣接
性格と申しますか、その範疇に入らない考えであります
で、市の助成というものがはずして、傾向にある
ように伺っております。もう一回、消防委員会あたり
の意見も調整して最後の意見を出していきたい
。三三番（高橋文治君）本年度は予算に計上しない
で、手当をふさがないという考えでございますか。

。助役（小出武男君）本年度は計上してないわけですが、
すでに当初予算では存目程度にしておるわけで
すが、先ほど申しましたように関係者、皆さんから切
なる要望もございまして、急に全部総額で二十
万あったわけだと思えますが、それをも急遽にゼロにする

ことはという中意見が伺われますので、本年度は暫定的にある額をきまりまして、最後に市会に追加計上したいというところでございます。

・三三番(高橋文治君)ただ今、答弁につきまして了解いたしました。

第一点について九重小学校校庭の野水池は学校に接してあるというようない理由のもとに修理をしないということとは納得できないと思います。

あつてもともと必要であるから作ったもので、学校だけが対象ではない。あつた所にも家がある。特にあつた所は家がたくさんあり水が不足してある。この点を特に要望しておきます。

・議長(里ノ住太郎君)本案はこれにて質疑を打ち切り、討論省略原案通り可決するに中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さしめられた。

日程第十、認定第一号乃至第八号昭和三十八年度一般会計、並びに特別会計決算書を一括して議題といたします。

三三番（三沢節君）こゝ際動議を提出したいと思ひます。ただ今、上程さしめられた認定第一号乃至第八号昭和三十八年度決算書の内容を審議につきまゝでは後日に繰りかへて行ないたいと思ひます。

議会運営協議会を代表して議事進行の動議を提出したいと思ひます。

なにとぞ満場、諸君より賛同をお願いいたします。

議長（黒川佐太郎君）ただ今三三番議員君より提出さし

まゝに議事進行の動議を議題といたします。

おはかりいたします。

三三番議員君の議事進行の動議にやゝ異議ありませ
んか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）やゝ異議なしと認めます。よつて動議
は可決されまゝです。

従ひまして認定第一号乃至第八号の審議はこれを後
日にゆづります。

おはかりいたします。

本日の会議はこゝにて止め延会いたしたいと思います。
こゝにやゝ異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）やゝ異議なしと認めます。よつて本

日はこゝにて延会することに決定いたしました。

次会は十二月十八日午前十時開会、その議事は議案第九十五号、認定第一号乃至第八号の審議といたします。

午後 五時四十八分 延会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

山本 昇	三天 節	安藤 龜吉	山田 教字	鈴木 孝	島野 茂樹郎	君塚 喜三	保科 忠大	西村 真次	小沢 惠太郎	菊井 敏博	石井 正	安西 益男	田村 源治郎
松本 藤太郎	高橋 文治	安沢 徳順	鈴木 市蔵	嶋田 繁	萩生 田七郎	中村 省吾	江田 徳太郎	藤田 好治	関 武夫	志村 信依	黒川 佐太郎	辻 田実	望月 照正

山口

康

大席議員

た

本席

